

投資信託説明書 (請求目論見書)

使用開始日 2025.1.25

eMAXIS Slim 国内債券インデックス

追加型投信／国内／債券／インデックス型

ファンドは、NISAの成長投資枠の対象です。
※販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

eMAXIS専用サイト <https://emaxis.am.mufg.jp/>

この目論見書により行う「eMAXIS Slim 国内債券インデックス」の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2024年7月24日に関東財務局長に提出しており、2024年7月25日に効力が生じております。

本書は、金融商品取引法第13条の規定に基づき作成され、投資者の請求により交付される目論見書(請求目論見書)です。

発行者名	: 三菱UFJアセットマネジメント株式会社
代表者の役職氏名	: 取締役社長 横川 直
本店の所在の場所	: 東京都港区東新橋一丁目9番1号
縦覧に供する場所	: 該当事項はありません。

目次

第一部【証券情報】	1
（1）【ファンドの名称】	1
（2）【内国投資信託受益証券の形態等】	1
（3）【発行（売出）価額の総額】	1
（4）【発行（売出）価格】	1
（5）【申込手数料】	1
（6）【申込単位】	1
（7）【申込期間】	1
（8）【申込取扱場所】	1
（9）【払込期日】	2
（10）【払込取扱場所】	2
（11）【振替機関に関する事項】	2
（12）【その他】	2
第二部【ファンド情報】	3
第1【ファンドの状況】	3
第2【管理及び運営】	27
第3【ファンドの経理状況】	34
第4【内国投資信託受益証券事務の概要】	83
第三部【委託会社等の情報】	84
第1【委託会社等の概況】	84
約款	130

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

eMAXIS Slim 国内債券インデックス（「ファンド」といいます。）

(2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の受益権です。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(3)【発行（売出）価額の総額】

1兆円を上限とします。

(4)【発行（売出）価格】

取得申込受付日の基準価額とします。

基準価額は、販売会社にてご確認ください。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034（受付時間：営業日の9:00～17:00）

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

eMAXIS専用サイト <https://emaxis.am.mufg.jp/>

（注）基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権総口数で除して得た額をいいます。

なお、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。

(5)【申込手数料】

ありません。

(6)【申込単位】

販売会社が定める単位

申込単位は販売会社にご確認ください。

確定拠出年金制度を利用する場合の取得申込みについては、1円以上1円単位とします。

(7)【申込期間】

2024年7月25日から2025年7月24日まで

※申込期間は、前記期間終了前に有価証券届出書を提出することによって更新される予定です。

(8)【申込取扱場所】

販売会社において申込みの取扱いを行います。

販売会社によっては、確定拠出年金制度を利用する場合の申込みの取扱いを行います。

販売会社は、下記にてご確認ください。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034（受付時間：営業日の9:00～17:00）

（9）【払込期日】

取得申込者は、申込金額を販売会社が定める日までに支払うものとします。

各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

（10）【払込取扱場所】

申込みを受け付けた販売会社です。

（11）【振替機関に関する事項】

株式会社証券保管振替機構

（12）【その他】

該当事項はありません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、NOMURA-BPI総合と連動する投資成果をめざして運用を行います。

信託金の限度額は、5,000億円です。

*委託会社は、受託会社と合意のうえ、信託金の限度額を変更することができます。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品の分類方法において、以下の商品分類および属性区分に該当します。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立区分	補足分類
単位型	国内	株式	MMF	インデックス型
	海外	債券		
	追加型	内外	不動産投信	MR F
		その他資産 ()	E T F	
		資産複合		

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替 ヘッジ	対象 インデックス	特殊型
株式	年1回	グローバル (日本を除く)	ファミリー ファンド	あり ()	日経225	ブル・ベア型
一般	年2回	日本	ファンド・ オブ・ ファンズ	なし	TOPIX	条件付運用型
大型株	年4回					
中小型株	年6回	北米			その他 (NOMURA -BPI総合)	ロング・ ショート型/ 絶対収益 追求型
債券	(隔月)	欧州				
一般	年12回	アジア				
公債	(毎月)	オセアニア				
社債	日々	中南米				
その他債券	その他	アフリカ				
クレジット	()	中近東				
属性		(中東)				
()		エマージング				
不動産投信						
その他資産						
(投資信託証券 (債券 一般))						
資産複合						
()						

※当ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）でご覧いただけます。

※ファミリーファンド、ファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて投資収益の源泉となる資産に投資しますので商品分類表と属性区分表の投資対象資産は異なります。

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

商品分類の定義

単位型・追加型	単位型	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいいます。
	追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	国内	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	海外	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	内外	信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	債券	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	不動産投信（リート）	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券および不動産投信以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、株式、債券、不動産投信およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
独立区分	MMF（マネー・マネージメント・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MR F 及びMMF の運営に関する規則」に規定するMMF をいいます。
	MR F（マネー・リザーブ・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MR F 及びMMF の運営に関する規則」に規定するMR F をいいます。
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成 12 年政令 480 号）第 12 条第 1 号および第 2 号に規定する証券投資信託ならびに租税特別措置法（昭和 32 年法律第 26 号）第 9 条の 4 の 2 に規定する上場証券投資信託をいいます。
補足分類	インデックス型	信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	特殊型	信託約款において、投資家（受益者）に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

※上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

属性区分の定義

投資対象資産	株式	一般	次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		大型株	信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
		中小型株	信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があ

			るものをいいます。
	債券	一般	次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		公債	信託約款において、日本国または各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		社債	信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		その他債券	信託約款において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		クレジット属性	目論見書または信託約款において、信用力が高い債券に選別して投資する、あるいは投資適格債（ＢＢＢ格相当以上）を投資対象の範囲とする旨の記載があるものについて高格付債、ハイイールド債等（ＢＢ格相当以下）を主要投資対象とする旨の記載があるものについて低格付債を債券の属性として併記します。
	不動産投信		信託約款において、主として不動産投信に投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他資産		信託約款において、主として株式、債券および不動産投信以外に投資する旨の記載があるものをいいます。
決算頻度	資産複合		信託約款において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるものをいいます。
	年 1 回	年 1 回	信託約款において、年 1 回決算する旨の記載があるものをいいます。
		年 2 回	信託約款において、年 2 回決算する旨の記載があるものをいいます。
		年 4 回	信託約款において、年 4 回決算する旨の記載があるものをいいます。
		年 6 回（隔月）	信託約款において、年 6 回決算する旨の記載があるものをいいます。
		年 12 回（毎月）	信託約款において、年 12 回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
		日々	信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいいます。
		その他	上記属性にあてはまらない全てのものをいいます。
投資対象地域	グローバル		信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	日本		信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	北米		信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	欧州		信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アジア		信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	オセアニア		信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中南米		信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アフリカ		信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

	中近東（中東）	信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング	信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産（一部組み入れている場合等を除きます。）を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファミリーファンド	信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。
	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	あり	信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。
	なし	信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
対象インデックス	日経225	信託約款において、日経225に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	TOPIX	信託約款において、TOPIXに連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記以外の指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
特殊型	ブル・ベア型	信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動もしくは逆連動（一定倍の連動もしくは逆連動を含みます。）を目指す旨の記載があるものをいいます。
	条件付運用型	信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいいます。
	ロング・ショート型／絶対収益追求型	信託約款において、ロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨もしくは特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記特殊型に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

※上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

ファンドの目的

わが国の債券市場の値動きに連動する投資成果をめざします。

ファンドの特色

特色1

NOMURA-BPI総合と連動する投資成果をめざして運用を行います。

- NOMURA-BPI総合をベンチマークとします。

<運用プロセスのイメージ>

ステップ1：投資対象ユニバースの作成

ベンチマーク採用銘柄を主要投資対象とします。

ステップ2：ポートフォリオ案の作成

モニタリング結果に加えて、ファンドの資金動向やベンチマーク構成の変動などを考慮してポートフォリオ案を作成します。

ステップ3：売買執行

売買執行の際には、売買コストの抑制に留意します。

ステップ4：モニタリング

一連の投資行動を分析し、その結果をポートフォリオに反映することで、運用の継続的な改善に努めます。

！ 上記の運用プロセスは変更される場合があります。また、市場環境等によっては上記のような運用ができない場合があります。
📄 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。
(https://www.am.mufg.jp/investment_policy/fm.html)

特色2

「日本債券インデックスマザーファンド」を通じて、主としてわが国の公社債に投資を行います。

- 対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し公社債の実質投資比率が100%を超える場合があります。

■ファンドの仕組み

運用は主に日本債券インデックスマザーファンドへの投資を通じて、わが国の公社債へ投資するファミリーファンド方式により行います。



■主な投資制限

デリバティブ	デリバティブ取引は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
--------	--

■分配方針

- 年1回の決算時(4月25日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。
- 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

 NOMURA-BPI総合とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

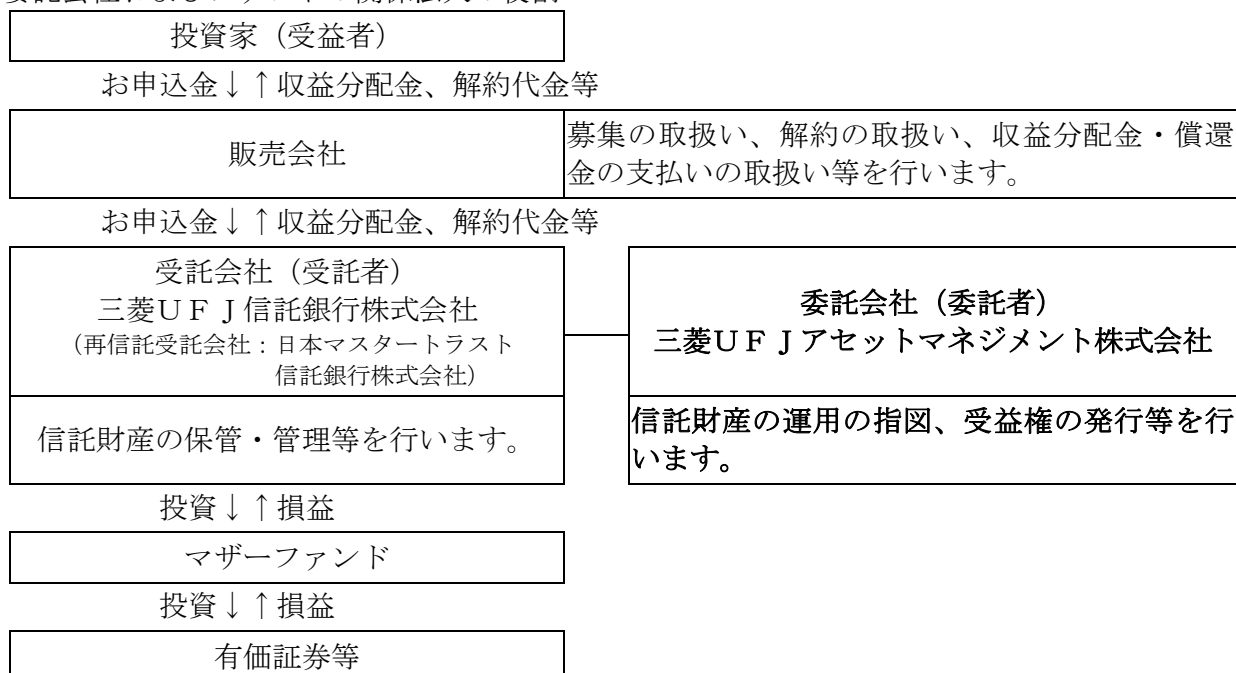
市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(2)【ファンドの沿革】

2017年2月27日 設定日、信託契約締結、運用開始

(3)【ファンドの仕組み】

①委託会社およびファンドの関係法人の役割



※委託会社は、自らファンドの募集等を行い、特定の販売会社と共同でファンドの販売に係る業務

を行っています。

②委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「投資信託受益権の取扱いに関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

③委託会社の概況（2024年10月末現在）

- ・金融商品取引業者登録番号
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号
- ・設立年月日
1985年8月1日
- ・資本金
2,000百万円
- ・沿革
1997年5月 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始
2004年10月 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更
2005年10月 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更
2015年7月 三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更
2023年10月 エム・ユー投資顧問株式会社の有価証券運用事業を三菱UFJ国際投信株式会社へ統合し、商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更

・大株主の状況

株主名	住所	所有株式数	所有比率
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	211,581株	100.0%

2【投資方針】

（1）【投資方針】

日本債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、わが国の公社債に直接投資することがあります。

日本債券インデックスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の公社債に投資を行います。

マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。

対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し公社債の実質投資比率が100%を超える場合があります。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（2）【投資対象】

①投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款に定める次のものに限りします。）

 a. 有価証券先物取引等

 b. スワップ取引

ハ. 約束手形

ニ. 金銭債権

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

②有価証券の指図範囲

この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託会社とする日本債券インデックスマザーファンド（「マザーファンド」または「親投資信託」といいます。）の受益証券のほか、次に掲げるものとします。なお、当該有価証券は本邦通貨表示のものに限ります。

1. 株券または新株引受権証書
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
6. 資産の流動化に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
9. 資産の流動化に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
10. 資産の流動化に係る特定目的信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第13号で定めるものをいいます。）
11. コマーシャル・ペーパー
12. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
13. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1. から 12. の証券または証書の性質を有するもの
14. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
15. 投資証券もしくは新投資口予約権証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。16. において同じ。）で 16. で定めるもの以外のもの
16. 投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下 16. において同じ。）または外国投資証券で投資法人債券に類する証券
17. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
18. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。）
19. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
20. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
21. 受益証券発行信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定めるものをいいます。）

す。)

22. 外国の者に対する権利で 21. の有価証券の性質を有するもの

23. 抵当証券（金融商品取引法第 2 条第 1 項第 16 号で定めるものをいいます。）

なお、1. の証券または証書ならびに 13. および 19. の証券または証書のうち 1. の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2. から 6. までの証券ならびに 16. の証券ならびに 13. および 19. の証券または証書のうち 2. から 6. までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、14. および 15. の証券を以下「投資信託証券」といいます。

③金融商品の指図範囲

この信託において投資の対象とする金融商品（金融商品取引法第 2 条第 2 項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）は、次に掲げるものとします。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第 2 条第 1 項第 14 号で定める受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第 2 条第 2 項第 1 号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で 5. の権利の性質を有するもの

<日本債券インデックスマザーファンドの概要>

（基本方針）

この投資信託は、NOMURA-BPI 総合と連動する投資成果をめざして運用を行います。

（運用方法）

①投資対象

NOMURA-BPI 総合に採用されている公社債を主要投資対象とします。

②投資態度

主として対象インデックスに採用されている公社債に投資を行い、信託財産の 1 口当たりの純資産額の変動率を対象インデックスの変動率に一致させることを目的とした運用を行います。

投資成果を対象インデックスの動きにできるだけ連動させるため、次のポートフォリオ管理を行います。

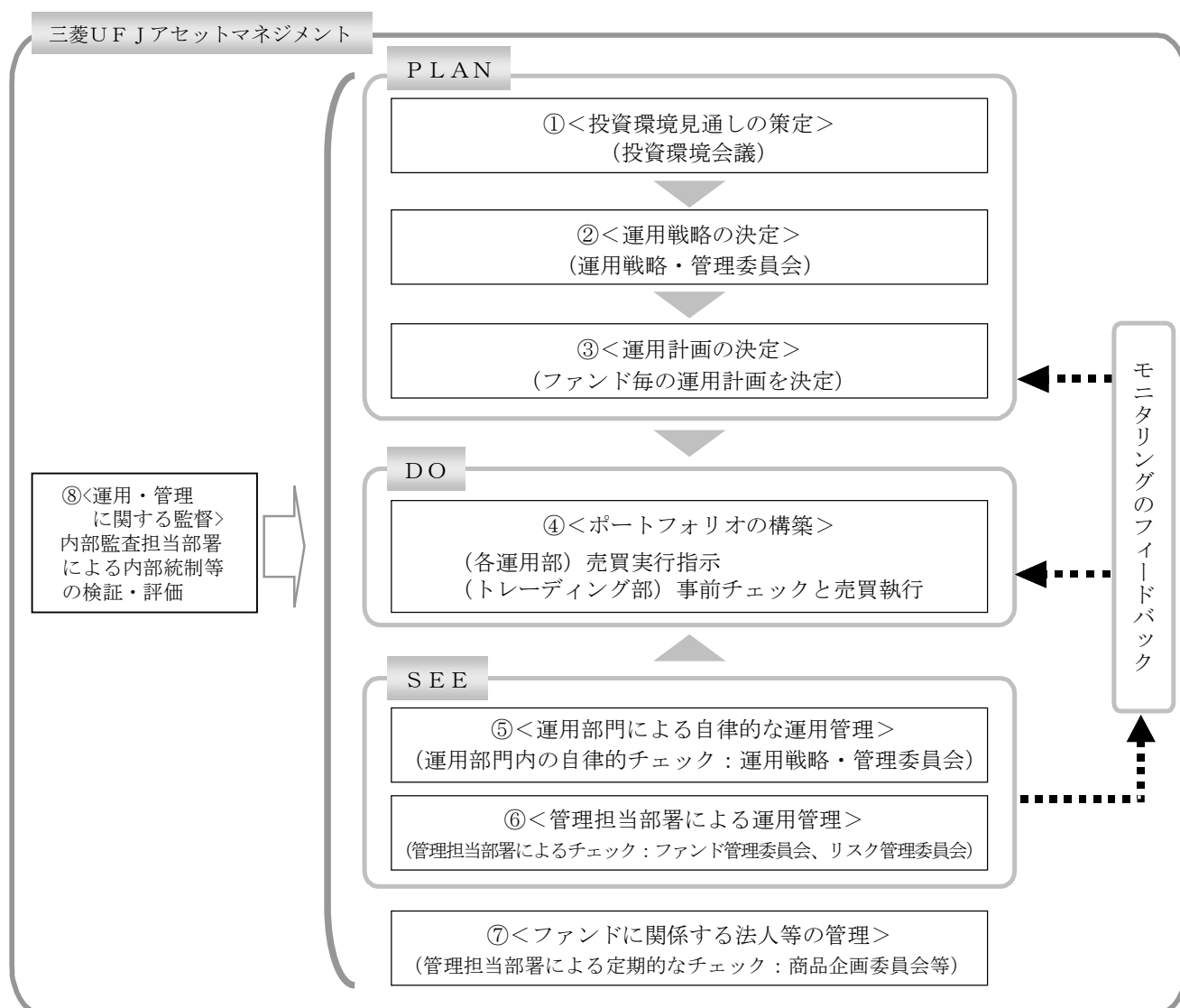
- ・公社債の実質投資比率（組入現物公社債の時価総額に債券先物取引等の買建額を加算し、または債券先物取引等の売建額を控除した額の信託財産の純資産総額に対する割合をいいます。）は原則として高位を維持します。ただし、対象インデックスとの連動を維持するため、実質投資比率を引き下げる、あるいは実質投資比率を 100%以上に引き上げる運用指図を行うことがあります。
- ・銘柄選択は、運用モデルを活用して行います。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

- ①株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の 10%以下とします。
- ②新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の 10%以下とします。
- ③投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の 5%以下とします。
- ④同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の 5%以下とします。
- ⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の 5%以下とします。
- ⑥同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の 10%以下とします。
- ⑦外貨建資産への投資は行いません。
- ⑧有価証券先物取引等を行うことができます。
- ⑨スワップ取引を行うことができます。
- ⑩デリバティブ取引（法人税法第 61 条の 5 に定めるものをいいます。）は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを回避する目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

(3) 【運用体制】



①投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

②運用戦略の決定

運用戦略・管理委員会において、①で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

③運用計画の決定

②で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

④ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

⑤運用部門による自律的な運用管理

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、運用部門内の管理担当部署は逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。また、運用戦略・管理委員会を通じて運用状況のモニタリングを行い、運用部門内での自律的牽制により運用改善を図ります。

⑥管理担当部署による運用管理

運用部から独立した管理担当部署（40～60 名程度）は、(a) 運用に関するパフォーマンス測定・分析のほか、(b) リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。

この結果は、(a) についてはファンド管理委員会を経て運用担当部・商品開発担当部にフィードバックされ、(b) についてはリスク管理委員会を通じて運用担当部にフィードバックされ、必要に応じて部署間連携の上で是正・改善の検討が行われます。

⑦ファンドに関係する法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に関係する法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、商品企画委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

⑧運用・管理に関する監督

内部監査担当部署（10 名程度）は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

なお、委託会社に関する「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。

「運用担当者に係る事項」 https://www.am.mufg.jp/investment_policy/fm.html

(4)【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ①分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
- ③収益の分配にあてなかった利益については、信託約款に定める運用の基本方針に基づいて運用を行います。

(5)【投資制限】

< 信託約款に定められた投資制限 >

①株式

- a. 委託会社は、信託財産に属する株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の 100 分の 10 を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

②外貨建資産

外貨建資産への投資は行いません。

③新株引受権証券および新株予約権証券

- a. 委託会社は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の 100 分の 10 を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

④投資信託証券

- a. 委託会社は、信託財産に属する投資信託証券（上場投資信託証券（金融商品取引所に上場等され、かつ当該取引所において常時売却可能（市場急変等により一時的に流動性が低下している場合を除きます。）な投資信託証券をいいます。）を除きます。以下 a. および b. において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の 100 分の 5 を超えることとなる投資の指図をしません。

- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める投資信託証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

⑤同一銘柄の株式等

- a. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。
- c. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- d. c. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

⑥同一銘柄の転換社債等

- a. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債（新株予約権付社債のうち、会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているものならびに会社法施行前の旧商法第341条の3第1項第7号および第8号の定めがあるものをいいます。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該転換社債および当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該転換社債および当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

⑦スワップ取引

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- b. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- d. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

⑧信用取引

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。
- b. a. の信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができますものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
1. 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券
 2. 株式分割により取得する株券
 3. 有償増資により取得する株券
 4. 売出しにより取得する株券
 5. 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権（⑥に規定する転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。）の行使により取得可能な株券
 6. 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権（5. に定めるものを除

きます。)の行使により取得可能な株券

⑨公社債の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めたときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- b. a. の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、b. の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

⑩資金の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。
- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

⑪投資する株式等の範囲

- a. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。
- b. a. の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができます。

⑫有価証券の貸付

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸し付けることの指図をすることができます。
 1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- b. a. に規定する限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- c. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

⑬デリバティブ取引等

デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいう。）については、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額として、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないこととします。

⑭信用リスクの分散規制

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うことと

します。

<その他法令等に定められた投資制限>

- ・同一の法人の発行する株式への投資制限

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

(1) 投資リスク

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

(主なリスクであり、以下に限定されるものではありません。)

①価格変動リスク

一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

②信用リスク

信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

③流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

※留意事項

- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象

とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。

- ・当ファンドは、NOMURA-BPI総合の動きに連動することをめざして運用を行いますが、信託報酬、売買委託手数料等を負担すること、債券先物取引と当該指数の動きが連動しないこと、売買約定価格と当該指数の評価価格の差が生じること、指数構成銘柄と組入銘柄の違いおよびそれらの構成比に違いが生じること、当該指数を構成する銘柄が変更になること等の要因により乖離を生じることがあります。

(2) 投資リスクに対する管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会においてそれらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を検討しています。

また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

具体的な、投資リスクに対するリスク管理体制は以下の通りです。

①コンプライアンス担当部署

法令上の禁止行為、約款の投資制限等のモニタリングを通じ、法令等遵守のための管理態勢の状況を把握・管理し、必要に応じて改善の指導を行います。

②リスク管理担当部署

運用リスク全般の状況をモニタリング・管理するとともに、運用実績の分析および評価を行い、必要に応じて改善策等を提言します。また、事務・情報資産・その他のリスクの統括的管理を行っています。

③内部監査担当部署

委託会社のすべての業務から独立した立場より、リスク管理体制の適切性および有効性について評価を行い、改善策の提案等を通して、リスク管理機能の維持・向上をはかります。

*組織変更等により、前記の名称および内容は変更となる場合があります。

■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

(2019年11月末～2024年10月末)



● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2019年11月末～2024年10月末)



ファンド 日本株 先進国株 新興国株 日本国債 先進国債 新興国債

(注) 全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI(国債)とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)	FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

(1) 【申込手数料】

ありません。

※申込手数料の対価として提供する役務の内容は、ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等です。

(2) 【換金（解約）手数料】

かかりません。

※換金（解約）手数料の対価として提供する役務の内容は、商品の換金に関する事務手続等です。

(3) 【信託報酬等】

- ・信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、年 0.132%（税抜 0.120%）以内の率を乗じて得た額とし、日々ファンドの基準価額に反映されます。

1 万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額×信託報酬率×（保有日数／365）

※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- ・信託報酬は、毎計算期間の 6 ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。
- ・信託報酬率ならびに各支払先への配分は、以下の通りです。

ファンドの純資産総額に応じて	信託報酬率 (税込 年率)	配分（税抜 年率）			
		合計	委託会社	販売会社	受託会社
500 億円未満の部分	0.1320%	0.120%	0.0500%	0.0500%	0.02%
500 億円以上 1,000 億円未満の部分	0.1265%	0.115%	0.0450%	0.0500%	0.02%
1,000 億円以上の部分	0.1210%	0.110%	0.0400%	0.0500%	0.02%

※上記各支払先への配分には、別途消費税等相当額がかかります

※委託会社が特定の販売会社と共同で行う投資信託取引サービスにおいては、上記信託報酬の販売会社への配分については委託会社が受領します。

各支払先が信託報酬の対価として提供する役務の内容は以下の通りです。

支払先	対価として提供する役務の内容
委託会社	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

(4) 【その他の手数料等】

- ・信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入を行う場合の借入金の利息および借入れに関する品借料は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。
- ・信託財産に係る監査費用（消費税等相当額を含みます。）は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に一定率を乗じて得た額とし、信託財産中から支弁します。支弁時期は信託報酬と同様です。
- ・信託財産（投資している投資信託を含みます。）の組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等（消費税等相当額を含みます。）、先物取引・オプション取引等に要する費用および外貨建資産

の保管等に要する費用についても信託財産が負担するものとします。

※売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

(注) 手数料等については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用（手数料等）の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

(5) 【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

①個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

1. 収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

原則として、20.315%（所得税 15%、復興特別所得税 0.315%、地方税 5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。なお、確定申告を行い、総合課税（配当控除は適用されません。）・申告分離課税を選択することもできます。

2. 解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益（譲渡益）が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%（所得税 15%、復興特別所得税 0.315%、地方税 5%）の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税 15%、復興特別所得税 0.315%、地方税 5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失（譲渡損）については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限り、）との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に「NISA（少額投資非課税制度）」の適用対象となります。ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象です。販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

②法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として 15.315%（所得税 15%、復興特別所得税 0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

(*) 確定拠出年金法に定める加入者等の運用の指図に基づいて受益権の取得の申込みを行う資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

※分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

◇個別元本について

- ①受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- ②受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。
- ③受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

◇収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、①当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、②当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

※上記は 2024 年 10 月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

（参考情報）ファンドの総経費率

直近の運用報告書作成対象期間（以下「当期間」といいます。）（2023年4月26日～2024年4月25日）における当ファンドの総経費率は以下の通りです。

総経費率(①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
0.13%	0.13%	0.00%

（比率は年率、表示桁数未満四捨五入）

※上記の詳細な総経費率は以下の通りです。

0.13491%【内訳①運用管理費用:0.13205%、②その他費用:0.00286%】（表示桁数未満四捨五入）

※当期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として購入時手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。消費税等のかかるものは消費税等を含む。）を当期間の平均受益権口数に平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除しています。

詳細につきましては、当期間の運用報告書（全体版）をご覧ください。

5【運用状況】

【eMAXIS Slim 国内債券インデックス】

（1）【投資状況】

2024 年 10 月 31 日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	25,599,038,939	99.99
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）	—	1,280,284	0.01
純資産総額		25,600,319,223	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

① 【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

2024 年 10 月 31 日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受 益証券	日本債券インデックスマザーファン ド	20,394,390,487	1.2554	25,603,117,818	1.2552	25,599,038,939	99.99

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2024 年 10 月 31 日現在

種類	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	99.99
合計	99.99

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

② 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③ 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

① 【純資産の推移】

下記計算期間末日および 2024 年 10 月末日、同日前 1 年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位：円)

		純資産総額		基準価額 (1 万口当たりの純資産価額)	
		(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第 1 計算期間末日	(2018 年 4 月 25 日)	1,438,098,376	1,438,098,376	10,071	10,071
第 2 計算期間末日	(2019 年 4 月 25 日)	3,873,062,841	3,873,062,841	10,213	10,213
第 3 計算期間末日	(2020 年 4 月 27 日)	8,447,358,680	8,447,358,680	10,254	10,254
第 4 計算期間末日	(2021 年 4 月 26 日)	12,583,214,994	12,583,214,994	10,173	10,173
第 5 計算期間末日	(2022 年 4 月 25 日)	16,341,360,382	16,341,360,382	9,956	9,956
第 6 計算期間末日	(2023 年 4 月 25 日)	18,670,134,241	18,670,134,241	9,773	9,773
第 7 計算期間末日	(2024 年 4 月 25 日)	22,836,540,710	22,836,540,710	9,480	9,480
2023 年 10 月末日		20,675,347,217	—	9,423	—

11 月末日	21, 258, 727, 437	—	9, 620	—
12 月末日	21, 343, 162, 600	—	9, 659	—
2024 年 1 月末日	21, 808, 486, 560	—	9, 587	—
2 月末日	22, 249, 485, 458	—	9, 616	—
3 月末日	22, 664, 089, 495	—	9, 604	—
4 月末日	22, 898, 856, 121	—	9, 493	—
5 月末日	22, 878, 098, 418	—	9, 341	—
6 月末日	23, 263, 232, 521	—	9, 365	—
7 月末日	23, 662, 532, 233	—	9, 354	—
8 月末日	24, 414, 515, 283	—	9, 463	—
9 月末日	25, 030, 421, 197	—	9, 488	—
10 月末日	25, 600, 319, 223	—	9, 440	—

②【分配の推移】

	1 万口当たりの分配金
第 1 計算期間	0 円
第 2 計算期間	0 円
第 3 計算期間	0 円
第 4 計算期間	0 円
第 5 計算期間	0 円
第 6 計算期間	0 円
第 7 計算期間	0 円

③【収益率の推移】

	収益率 (%)
第 1 計算期間	0. 71
第 2 計算期間	1. 40
第 3 計算期間	0. 40
第 4 計算期間	△0. 78
第 5 計算期間	△2. 13
第 6 計算期間	△1. 83
第 7 計算期間	△2. 99
第 8 中間計算期間	△0. 44

(注)「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に 100 を乗じて得た数をいう。

(4)【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第 1 計算期間	2, 252, 852, 042	824, 883, 204	1, 427, 968, 838

第 2 計算期間	4,697,535,691	2,333,053,135	3,792,451,394
第 3 計算期間	10,649,610,110	6,204,024,771	8,238,036,733
第 4 計算期間	11,215,793,751	7,084,666,244	12,369,164,240
第 5 計算期間	16,063,091,724	12,019,430,680	16,412,825,284
第 6 計算期間	21,527,243,242	18,837,111,727	19,102,956,799
第 7 計算期間	33,660,968,841	28,673,777,918	24,090,147,722
第 8 中間計算期間	23,189,162,809	20,118,447,105	27,160,863,426

(参考)

日本債券インデックスマザーファンド

投資状況

2024 年 10 月 31 日現在

(単位：円)

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率 (%)
国債証券	日本	830,409,728,350	84.72
地方債証券	日本	50,582,517,860	5.16
特殊債券	日本	39,795,206,198	4.06
社債券	日本	62,066,077,000	6.33
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)	—	△2,647,880,416	△0.27
純資産総額		980,205,648,992	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

その他の資産の投資状況

2024 年 10 月 31 日現在

(単位：円)

資産の種類	建別	国／地域	時価合計	投資比率 (%)
債券先物取引	買建	日本	3,316,370,000	0.34

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位 30 銘柄

2024 年 10 月 31 日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	利率 (%)	償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
日本	国債証券	第 149 回利付国債 (5 年)	12,670,000,000	99.22	12,571,334,900	99.23	12,572,821,100	0.005000	2026/9/20	1.28
日本	国債証券	第 373 回利付国債 (10 年)	10,980,000,000	97.12	10,663,990,800	97.88	10,747,224,000	0.600000	2033/12/20	1.10

日本	国債証券	第368回利付国債（10年）	10,930,000,000	95.27	10,413,805,500	96.08	10,501,981,200	0.200000	2032/9/20	1.07
日本	国債証券	第369回利付国債（10年）	10,480,000,000	97.43	10,210,962,000	98.15	10,286,958,400	0.500000	2032/12/20	1.05
日本	国債証券	第163回利付国債（5年）	10,230,000,000	99.60	10,189,724,000	99.65	10,194,808,800	0.400000	2028/9/20	1.04
日本	国債証券	第359回利付国債（10年）	10,190,000,000	97.07	9,891,879,000	97.38	9,923,123,900	0.100000	2030/6/20	1.01
日本	国債証券	第370回利付国債（10年）	9,860,000,000	97.09	9,573,841,800	97.91	9,654,123,200	0.500000	2033/3/20	0.98
日本	国債証券	第361回利付国債（10年）	9,760,000,000	96.52	9,420,888,000	97.04	9,471,201,600	0.100000	2030/12/20	0.97
日本	国債証券	第358回利付国債（10年）	9,690,000,000	97.33	9,432,071,500	97.52	9,449,688,000	0.100000	2030/3/20	0.96
日本	国債証券	第356回利付国債（10年）	9,580,000,000	97.53	9,343,716,000	97.78	9,368,186,200	0.100000	2029/9/20	0.96
日本	国債証券	第371回利付国債（10年）	9,560,000,000	96.09	9,186,980,500	96.80	9,254,940,400	0.400000	2033/6/20	0.94
日本	国債証券	第363回利付国債（10年）	9,520,000,000	95.97	9,137,000,000	96.62	9,198,700,000	0.100000	2031/6/20	0.94
日本	国債証券	第153回利付国債（5年）	9,070,000,000	98.93	8,973,347,000	98.90	8,970,774,200	0.005000	2027/6/20	0.92
日本	国債証券	第372回利付国債（10年）	8,920,000,000	99.19	8,847,923,500	99.91	8,912,596,400	0.800000	2033/9/20	0.91
日本	国債証券	第173回利付国債（5年）	8,800,000,000	100.07	8,806,798,000	100.16	8,814,608,000	0.600000	2029/9/20	0.90
日本	国債証券	第158回利付国債（5年）	8,540,000,000	98.73	8,432,021,100	98.80	8,437,605,400	0.100000	2028/3/20	0.86
日本	国債証券	第367回利付国債（10年）	8,750,000,000	95.60	8,365,161,600	96.34	8,429,925,000	0.200000	2032/6/20	0.86
日本	国債証券	第362回利付国債（10年）	8,540,000,000	96.32	8,226,514,200	96.83	8,269,879,800	0.100000	2031/3/20	0.84
日本	国債証券	第364回利付国債（10年）	8,440,000,000	96.10	8,111,451,500	96.40	8,136,750,800	0.100000	2031/9/20	0.83
日本	国債証券	第458回利付国債（2年）	7,900,000,000	99.82	7,885,994,000	99.80	7,884,279,000	0.200000	2026/3/1	0.80
日本	国債証券	第366回利付国債（10年）	7,810,000,000	95.79	7,481,845,700	96.62	7,546,490,600	0.200000	2032/3/20	0.77
日本	国債証券	第365回利付国債（10年）	7,620,000,000	95.39	7,268,833,200	96.15	7,326,706,200	0.100000	2031/12/20	0.75
日本	国債証券	第148回利付国債（5年）	7,200,000,000	99.30	7,149,976,000	99.35	7,153,848,000	0.005000	2026/6/20	0.73
日本	国債証券	第156回利付国債（5年）	7,150,000,000	99.24	7,095,890,000	99.24	7,095,803,000	0.200000	2027/12/20	0.72
日本	国債証券	第360回利付国債（10年）	7,140,000,000	96.89	6,918,034,400	97.21	6,941,008,200	0.100000	2030/9/20	0.71
日本	国債証券	第154回利付国債（5年）	6,830,000,000	99.03	6,763,887,000	99.04	6,764,773,500	0.100000	2027/9/20	0.69
日本	国債証券	第374回利付国債（10年）	6,700,000,000	98.41	6,593,629,500	99.34	6,656,383,000	0.800000	2034/3/20	0.68
日本	国債証券	第457回利付国債（2年）	6,510,000,000	99.66	6,488,217,400	99.70	6,490,860,600	0.100000	2026/2/1	0.66
日本	国債証券	第350回利付国債（10年）	6,530,000,000	98.73	6,447,134,300	98.80	6,451,705,300	0.100000	2028/3/20	0.66
日本	国債証券	第345回利付国債（10年）	6,340,000,000	99.35	6,299,107,000	99.32	6,297,078,200	0.100000	2026/12/20	0.64

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類／業種別投資比率

2024 年 10 月 31 日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	84.72
地方債証券	5.16
特殊債券	4.06
社債券	6.33
合計	100.27

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

2024 年 10 月 31 日現在

資産の種類	取引所名	資産の名称	建別	数量	通貨	簿価金額（円）	評価金額（円）	投資比率（％）
債券先物取引	大阪取引所	長期国債先物 2 4 年 1 2 月限	買建	23	円	3,324,211,505	3,316,370,000	0.34

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該投資資産の評価金額の比率です。

《参考情報》

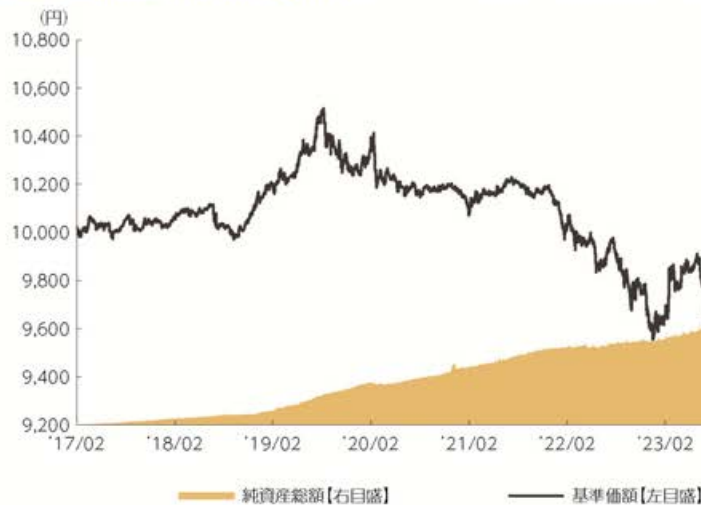


運用実績

2024年10月31日現在

■基準価額・純資産の推移

2017年2月27日(設定日)～2024年10月31日



- 基準価額は10,000を起点として表示
- 基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	9,440円
純資産総額	256.0億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2024年 4月	0円
2023年 4月	0円
2022年 4月	0円
2021年 4月	0円
2020年 4月	0円
2019年 4月	0円
設定来累計	0円

●分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

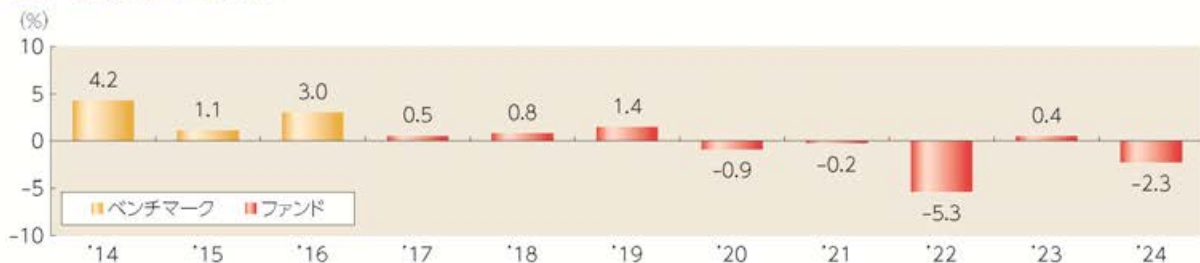
種別構成	比率
国債	84.7%
地方債	5.2%
特殊債	4.1%
社債	6.3%
コールローン他 (負債控除後)	-0.3%
合計	100.0%

組入上位銘柄	種別	比率
1 第149回利付国債(5年)	国債	1.3%
2 第373回利付国債(10年)	国債	1.1%
3 第368回利付国債(10年)	国債	1.1%
4 第369回利付国債(10年)	国債	1.0%
5 第163回利付国債(5年)	国債	1.0%
6 第359回利付国債(10年)	国債	1.0%
7 第370回利付国債(10年)	国債	1.0%
8 第361回利付国債(10年)	国債	1.0%
9 第358回利付国債(10年)	国債	1.0%
10 第356回利付国債(10年)	国債	1.0%

その他資産の状況	比率
債券先物取引 (買建)	0.3%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

■年間収益率の推移



- 収益率は基準価額で計算
- 2017年は設定日から年末までの、2024年は年初から10月31日までの収益率を表示
- 2016年以前はベンチマークの年間収益率を表示

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
ベンチマークはあくまで参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

1 【申込（販売）手続等】

①申込みの受付

原則として、いつでも申込みができます。

取得申込者の受益権は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

②申込単位

販売会社が定める単位

確定拠出年金制度を利用する場合の取得申込みについては、1円以上1円単位

③申込価額

取得申込受付日の基準価額

④申込価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

⑤申込単位・申込価額の照会方法

申込単位および申込価額は、販売会社にてご確認ください。

また、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

なお、申込価額は委託会社のホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

eMAXIS専用サイト <https://emaxis.am.mufg.jp/>

⑥申込手数料

ありません。

⑦申込方法

取得申込者は、販売会社取引口座を開設のうえ、申込みを行うものとします。

取得申込者は、申込金額を販売会社が定める日までに支払うものとします。

なお、申込みには分配金受取コース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があります。申込みコースの取扱いには販売会社により異なる場合があります。

⑧申込受付時間

取得の申込みは、申込期間において、原則として販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の方法で行われます。取得申込みが行われ、かつ当該取得申込みに係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該時刻を過ぎての申込みに関しては販売会社にご確認ください。

確定拠出年金制度を利用する場合の取得申込みについては上記と異なる取扱いをしている場合があります。

⑨取得申込みの受付の中止および取消し

金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受付を中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受付を取り消すことがあります。

また、信託金の限度額に達しない場合でも、当ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、取得申込みの受付を中止することがあります。

※申込（販売）手続等の詳細に関しては販売会社にご確認ください。

2 【換金（解約）手続等】

①解約の受付

原則として、いつでも解約の請求ができます。

受益者の解約請求に係る受益権の口数の減少は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

②解約単位

販売会社が定める単位

確定拠出年金制度を利用する場合の解約請求については、1口単位

③解約価額

解約請求受付日の基準価額

④信託財産留保額

ありません。

⑤解約価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

⑥解約価額の照会方法

解約価額は、販売会社にてご確認いただけます。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

(受付時間：営業日の9:00～17:00)

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

eMAXIS専用サイト <https://emaxis.am.mufg.jp/>

⑦支払開始日

解約代金は、原則として解約請求受付日から起算して4営業日目から販売会社において支払います。

⑧解約請求受付時間

解約の請求は、原則として販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の方法で行われます。

解約請求が行われ、かつ当該換金請求に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。当該時刻を過ぎての請求に関しては販売会社にご確認ください。

確定拠出年金制度を利用する場合の解約請求については上記と異なる取扱いをしている場合があります。

⑨解約請求受付の中止および取消し

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することおよびすでに受け付けた解約請求を取り消すことがあります。その場合には、受益者は、当該受付中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受け付けたものとします。

また、市況動向等により、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。

※換金（解約）手続等の詳細に関しては販売会社にご確認ください。

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

①基準価額の算出方法

基準価額＝信託財産の純資産総額÷受益権総口数

なお、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。

「信託財産の純資産総額」とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

（資産の評価方法）

- ・株式／上場投資信託証券／不動産投資信託証券

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場（外国で取引されているものについては、原則として、金融商品取引所における計算時に知りうる直近の日の最終相場）で評価します。

- ・転換社債／転換社債型新株予約権付社債

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額（外国で取引されているものについては、原則として、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額）で評価します。

- ・公社債等

原則として、計算日に入手した日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者・銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額で評価します。

残存期間1年以内の公社債等については、一部償却原価法による評価を適用することができます。

- ・マザーファンド

計算日における基準価額で評価します。

- ・投資信託証券（上場投資信託証券／不動産投資信託証券を除く。）

原則として、計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

- ・外貨建資産

原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値により円換算します。

- ・外国為替予約取引

原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値により評価します。

- ・市場デリバティブ取引

原則として、金融商品取引所が発表する計算日の清算値段等で評価します。

②基準価額の算出頻度

原則として、委託会社の営業日に計算されます。

③基準価額の照会方法

基準価額は、販売会社にてご確認いただけます。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00）

ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>

eMAXIS専用サイト <https://emaxis.am.mufg.jp/>

（2）【保管】

該当事項はありません。

（3）【信託期間】

無期限（2017年2月27日設定）

ただし、後記「ファンドの償還条件等」の規定によりファンドを償還させることがあります。

（４）【計算期間】

毎年4月26日から翌年4月25日まで

ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

なお、最終計算期間の終了日は、ファンドの信託期間の終了日とします。

（５）【その他】

①ファンドの償還条件等

委託会社は、以下の場合には、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、ファンドを償還させることができます。（任意償還）

- ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合
- ・信託期間中において、ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき、対象インデックスが改廃されたときまたはやむを得ない事情が発生したとき

このほか、監督官庁よりファンドの償還の命令を受けたとき、委託会社の登録取消・解散・業務廃止のときは、原則として、ファンドを償還させます。

委託会社は、ファンドを償還しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。

②信託約款の変更等

委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたは受託会社を同一とする他ファンドとの併合を行うことができます。委託会社は、変更または併合しようとするときは、あらかじめその旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、上記の手続きにしたがいます。

③ファンドの償還等に関する開示方法

委託会社は、ファンドの任意償還（信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたとき、また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、書面決議の手続を行うことが困難な場合を除きます。）、信託約款の変更または併合

（変更にあつては、その変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、併合にあつては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下、「重大な約款変更等」といいます。）をしようとする場合には、書面による決議（「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに任意償還等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、受益者に対し書面をもって書面決議の通知を發します。受益者は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、受益者が議決権を行使しないときは書面決議について賛成するものとみなします。書面決議は、議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上をもって行います。書面決議の効力は、ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。

併合に係るいずれかのファンドにおいて、書面決議が否決された場合、併合を行うことはできません。

④反対受益者の受益権買取請求の不適用

委託会社がファンドの任意償還、重大な約款変更等を行う場合、書面決議において反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。この規定は、受益者が自己に帰属する受益権についてその全部または一部の償還を請求したときに、委託会社が信託約款の規定に基づいて信託契約の一部解約をすることにより当該請求に応じることとする場合には適用しません。

⑤関係法人との契約の更改

委託会社と販売会社との間で締結された「投資信託受益権の取扱に関する契約」の契約期間は、契約締結日から1年とします。ただし双方から契約満了日の3ヵ月前までに別段の意思表示のないときは、さらに1年間延長するものとし、その後も同様とします。

⑥運用報告書

委託会社は、毎計算期間の末日および償還時に、交付運用報告書を作成し、原則として受益者に交付します。なお、信託約款の内容に委託会社が重要と判断した変更、ファンドの任意償還等があった場合は、その内容を交付運用報告書に記載します。

⑦委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。また、委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

⑧受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はファンドを償還させます。

⑨信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について再信託受託会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

⑩公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.am.mufg.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。

(1) 収益分配金に対する受領権

受益者は、収益分配金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

①分配金受取コース（一般コース）

収益分配金は、税金を差引いた後、毎計算期間の終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いの請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

②分配金再投資コース（累積投資コース）

収益分配金は、税金を差引いた後、「累積投資契約」に基づいて、決算日の基準価額により自動的に無手数料で全額再投資されます。

(2) 償還金に対する受領権

受益者は、償還金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いの請求を行わない場合はその権

利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

(3) 換金（解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、換金（解約）請求する権利を有します。

くわしくは「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」を参照してください。

第3【ファンドの経理状況】

- 1 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和 38 年大蔵省令第 59 号）ならびに同規則第 2 条の 2 の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成 12 年総理府令第 133 号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2 当ファンドは、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づき、当期（2023 年 4 月 26 日から 2024 年 4 月 25 日まで）の財務諸表について、PwC Japan 有限責任監査法人により監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

2024年7月3日

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan 有限責任監査法人

東京事務所
指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているeMAXIS Slim 国内債券インデックスの2023年4月26日から2024年4月25日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、eMAXIS Slim 国内債券インデックスの2024年4月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の

意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRL データは監査の対象には含まれていません。

1 【財務諸表】

【eMAXIS Slim 国内債券インデックス】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第6期 [2023年 4月 25日現在]	第7期 [2024年 4月 25日現在]
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	68,686,368	54,870,836
親投資信託受益証券	18,668,917,758	22,835,052,699
未収入金	-	2,317,356
未収利息	-	96
流動資産合計	18,737,604,126	22,892,240,987
資産合計	18,737,604,126	22,892,240,987
負債の部		
流動負債		
未払解約金	55,583,151	40,883,432
未払受託者報酬	1,939,114	2,417,125
未払委託者報酬	9,695,548	12,085,553
未払利息	50	-
その他未払費用	252,022	314,167
流動負債合計	67,469,885	55,700,277
負債合計	67,469,885	55,700,277
純資産の部		
元本等		
元本	19,102,956,799	24,090,147,722
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金 (△)	△432,822,558	△1,253,607,012
(分配準備積立金)	144,688,706	163,897,249
元本等合計	18,670,134,241	22,836,540,710
純資産合計	18,670,134,241	22,836,540,710
負債純資産合計	18,737,604,126	22,892,240,987

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第6期 自 2022年 4月 26日 至 2023年 4月 25日	第7期 自 2023年 4月 26日 至 2024年 4月 25日
営業収益		
受取利息	416	8,741
有価証券売買等損益	△285,173,435	△629,122,072
営業収益合計	△285,173,019	△629,113,331
営業費用		
支払利息	29,434	45,225

受託者報酬	3,768,622	4,602,786
委託者報酬	18,843,019	23,013,791
その他費用	489,794	598,235
営業費用合計	23,130,869	28,260,037
営業利益又は営業損失（△）	△308,303,888	△657,373,368
経常利益又は経常損失（△）	△308,303,888	△657,373,368
当期純利益又は当期純損失（△）	△308,303,888	△657,373,368
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）	△209,391,409	△216,240,527
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△71,464,902	△432,822,558
剰余金増加額又は欠損金減少額	177,272,255	766,453,808
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	177,272,255	766,453,808
剰余金減少額又は欠損金増加額	439,717,432	1,146,105,421
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	439,717,432	1,146,105,421
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△432,822,558	△1,253,607,012

（３）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
--------------------	---

（重要な会計上の見積りに関する注記）

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

	第 6 期 [2023 年 4 月 25 日現在]	第 7 期 [2024 年 4 月 25 日現在]
1. 期首元本額	16,412,825,284 円	19,102,956,799 円
期中追加設定元本額	21,527,243,242 円	33,660,968,841 円
期中一部解約元本額	18,837,111,727 円	28,673,777,918 円
2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回っており、その差額であります。	432,822,558 円	1,253,607,012 円
3. 受益権の総数	19,102,956,799 口	24,090,147,722 口

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第 6 期 自 2022 年 4 月 26 日 至 2023 年 4 月 25 日			第 7 期 自 2023 年 4 月 26 日 至 2024 年 4 月 25 日		
1. 分配金の計算過程			1. 分配金の計算過程		
項目			項目		
費用控除後の配当等収益額	A	101,094,731 円	費用控除後の配当等収益額	A	125,199,192 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	—円
収益調整金額	C	522,300,914 円	収益調整金額	C	810,996,262 円
分配準備積立金額	D	43,593,975 円	分配準備積立金額	D	38,698,057 円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	666,989,620 円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	974,893,511 円
当ファンドの期末残存口数	F	19,102,956,799 口	当ファンドの期末残存口数	F	24,090,147,722 口

1 万口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	349 円	1 万口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	404 円
1 万口当たり分配金額	H	—円	1 万口当たり分配金額	H	—円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	—円	収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	—円

(金融商品に関する注記)

1 金融商品の状況に関する事項

区分	第 6 期 自 2022 年 4 月 26 日 至 2023 年 4 月 25 日	第 7 期 自 2023 年 4 月 26 日 至 2024 年 4 月 25 日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」(昭和 26 年法律第 198 号) 第 2 条第 4 項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同左

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	第 6 期 [2023 年 4 月 25 日現在]	第 7 期 [2024 年 4 月 25 日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記) に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コールローン等)は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第 6 期 [2023 年 4 月 25 日現在]	第 7 期 [2024 年 4 月 25 日現在]
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	△151,273,059	△483,531,540
合計	△151,273,059	△483,531,540

（デリバティブ取引に関する注記）
取引の時価等に関する事項
該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）
該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第 6 期 [2023 年 4 月 25 日現在]	第 7 期 [2024 年 4 月 25 日現在]
1口当たり純資産額	0.9773 円	0.9480 円
(1万口当たり純資産額)	(9,773 円)	(9,480 円)

（4）【附属明細表】

第 1 有価証券明細表

(1)株式
該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	日本債券インデックスマザーファンド	18,128,812,877	22,835,052,699	
合計		18,128,812,877	22,835,052,699	

第 2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第 3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドの主要投資対象の状況は以下の通りです。
なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

貸借対照表

(単位：円)

[2024 年 4 月 25 日現在]

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	4, 483, 715, 494
国債証券	777, 124, 462, 100
地方債証券	46, 870, 857, 550
特殊債券	36, 413, 223, 958
社債券	56, 004, 023, 000
未収入金	1, 655, 364, 500
未収利息	1, 241, 398, 401
前払金	28, 080, 000
前払費用	129, 216, 727
差入委託証拠金	35, 245, 112
流動資産合計	923, 985, 586, 842
資産合計	923, 985, 586, 842
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	29, 481, 505
未払金	500, 000, 000
未払解約金	132, 392, 885
流動負債合計	661, 874, 390
負債合計	661, 874, 390
純資産の部	
元本等	
元本	733, 010, 922, 997
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	190, 312, 789, 455
元本等合計	923, 323, 712, 452
純資産合計	923, 323, 712, 452
負債純資産合計	923, 985, 586, 842

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引は金融商品取引所等における清算値段で評価しております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

	[2024 年 4 月 25 日現在]
1. 期首	2023 年 4 月 26 日
期首元本額	548, 348, 622, 456 円

期中追加設定元本額	251,488,760,555 円
期中一部解約元本額	66,826,460,014 円
元本の内訳※	
三菱UFJ ライフセレクトファンド（安定型）	7,877,462,389 円
三菱UFJ ライフセレクトファンド（安定成長型）	12,035,265,805 円
三菱UFJ ライフセレクトファンド（成長型）	3,249,591,744 円
三菱UFJ プライムバランス（安定型）（確定拠出年金）	58,900,764,153 円
三菱UFJ プライムバランス（安定成長型）（確定拠出年金）	111,051,878,972 円
三菱UFJ プライムバランス（成長型）（確定拠出年金）	37,093,250,132 円
三菱UFJ 6資産バランスファンド（2ヵ月分配型）	216,560,403 円
三菱UFJ 6資産バランスファンド（成長型）	196,352,212 円
三菱UFJ 国内債券インデックスファンド	1,736,742,187 円
eMAXIS 国内債券インデックス	6,349,216,253 円
eMAXIS バランス（8資産均等型）	4,636,460,738 円
eMAXIS バランス（波乗り型）	87,429,288 円
三菱UFJ プライムバランス（8資産）（確定拠出年金）	18,642,004,898 円
三菱UFJ 国内債券インデックスファンド（確定拠出年金）	42,276,500,882 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金）	11,467,342,818 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金）	5,511,161,504 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）	2,563,450,935 円
eMAXIS Slim 国内債券インデックス	18,128,812,877 円
国内債券セレクション（ラップ向け）	10,386,091,705 円
eMAXIS Slim バランス（8資産均等型）	24,120,202,874 円
つみたて8資産均等バランス	11,953,340,200 円
つみたて4資産均等バランス	4,624,963,650 円
eMAXIS マイマネージャー 1970s	19,519,466 円
eMAXIS マイマネージャー 1980s	15,005,172 円
eMAXIS マイマネージャー 1990s	446,868 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）	6,574,385,264 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）	2,980,505,102 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）	1,196,096,850 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式15）	7,312,467,329 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式40）	7,379,474,954 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式65）	4,810,340,187 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金）	904,613,810 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式25）	1,423,142,398 円
国内債券インデックスファンド（ラップ向け）	1,599,291,106 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065（確定拠出年金）	435,552,462 円
ラップ向けインデックスf 国内債券	6,619,224,050 円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド（保守型）	2,447,537,842 円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド（標準型）	2,842,938,302 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式80）	10,769,302 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2070（確定拠出年金）	3,457,562 円
三菱UFJ アドバンスト・バランス（安定型）	115,955,070 円
三菱UFJ アドバンスト・バランス（安定成長型）	177,956,270 円
eMAXIS 債券バランス（2資産均等型）	77,429,768 円

eMAXIS バランス (4資産均等型)	1,955,690,391 円
eMAXIS 最適化バランス (マイゴールキーパー)	2,052,758,963 円
eMAXIS 最適化バランス (マイディフェンダー)	1,211,582,749 円
eMAXIS 最適化バランス (マイミッドフィルダー)	2,223,852,783 円
eMAXIS 最適化バランス (マイフォワード)	136,428,647 円
eMAXIS 最適化バランス (マイストライカー)	56,893,415 円
三菱UFJ 日本債券ファンドVA (適格機関投資家限定)	5,704,721,206 円
三菱UFJ バランスファンド45VA (適格機関投資家限定)	28,209,961 円
三菱UFJ バランスファンド40VA (適格機関投資家限定)	8,993,997,788 円
三菱UFJ バランスファンドVA 20型 (適格機関投資家限定)	611,362,804 円
三菱UFJ バランスファンドVA 40型 (適格機関投資家限定)	4,588,038,506 円
MUAM 日本債券インデックスファンド (適格機関投資家限定)	175,028,348,254 円
三菱UFJ バランスファンドVA 50型 (適格機関投資家限定)	472,591,649 円
三菱UFJ バランスファンド55VA (適格機関投資家限定)	1,613,952 円
三菱UFJ バランスファンドVA 30型 (適格機関投資家限定)	308,807 円
三菱UFJ バランスファンド50VA (適格機関投資家限定)	4,397,282,458 円
三菱UFJ バランスファンド20VA (適格機関投資家限定)	2,493,343,447 円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション (適格機関投資家転売制限付)	3,011,040,143 円
世界8資産バランスファンドVL (適格機関投資家限定)	602,989,649 円
MUKAM 日本債券インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	23,063,604,126 円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション2 (適格機関投資家限定)	1,720,664,888 円
マルチアセット運用戦略ファンド (適格機関投資家限定)	2,104,088 円
日本債券インデックスファンドS	5,275,343,781 円
グローバルバランスオープンV (適格機関投資家限定)	4,084,253 円
国内債券インデックスオープンV (適格機関投資家限定)	4,623,955 円
MUAM グローバルバランス (退職給付信託向け) (適格機関投資家限定)	24,503,259,248 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-07 (適格機関投資家限定)	429,832,474 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-09 (適格機関投資家限定)	424,280,144 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-11 (適格機関投資家限定)	424,729,389 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-01 (適格機関投資家限定)	421,626,267 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-03 (適格機関投資家限定)	419,477,595 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-05 (適格機関投資家限定)	420,955,442 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-07 (適格機関投資家限定)	413,671,752 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-09 (適格機関投資家限定)	416,234,104 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-11 (適格機関投資家限定)	418,690,273 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-01 (適格機関投資家限定)	416,840,490 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-03 (適格機関投資家限定)	462,440,331 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-05 (適格機関投資家限定)	469,323,041 円

MUKAM アセットアロケーションファンド2022-07 (適格機関投資家限定)	477,586,919 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-09 (適格機関投資家限定)	478,244,702 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-11 (適格機関投資家限定)	476,937,873 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2023-01 (適格機関投資家限定)	490,248,647 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2023-03 (適格機関投資家限定)	476,919,903 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2023-05 (適格機関投資家限定)	477,769,455 円
インデックス・ライフ・バランスファンド (安定型) VA	19,042,573 円
インデックス・ライフ・バランスファンド (安定成長型) VA	22,592,642 円
インデックス・ライフ・バランスファンド (成長型) VA	3,394,719 円
インデックス・ライフ・バランスファンド (積極型) VA	9,747,457 円
三菱UFJ バランスVA30D (適格機関投資家限定)	18,485,436 円
三菱UFJ バランスVA60D (適格機関投資家限定)	47,458,838 円
三菱UFJ バランスVA30G (適格機関投資家限定)	9,402,955 円
三菱UFJ バランスVA60G (適格機関投資家限定)	30,565,074 円
三菱UFJ <DC>日本債券インデックスファンド	4,272,522,098 円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (安定型)	2,287,019,233 円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (安定成長型)	4,850,273,792 円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (成長型)	3,065,841,833 円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (積極型)	2,163,071,882 円
合計	733,010,922,997 円
2. 受益権の総数	733,010,922,997 口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)

1 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2023 年 4 月 26 日 至 2024 年 4 月 25 日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」(昭和26年法律第198号)第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債等に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 当ファンドは、運用の効率化を図るために、債券先物取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、価格変動リスク等の市場リスクおよび信用リスク等を有しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	また、デリバティブ取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。 ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果はリスク管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。

2 金融商品の時価等に関する事項

区分	[2024 年 4 月 25 日現在]
----	---------------------

1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、(デリバティブ取引に関する注記)に記載しております。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コールローン等)は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	[2024 年 4 月 25 日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額 (円)
国債証券	△32,936,072,550
地方債証券	△724,518,560
特殊債券	△785,812,459
社債券	△449,982,000
合計	△34,896,385,569

(注) 当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

(デリバティブ取引に関する注記)

取引の時価等に関する事項

債券関連

[2024 年 4 月 25 日現在]					
区分	種類	契約額等 (円)		時価 (円)	評価損益 (円)
			うち1年超		
市場取引	債券先物取引				
	買建	3,344,910,000	—	3,315,450,000	△29,460,000
合計		3,344,910,000	—	3,315,450,000	△29,460,000

(注) 時価の算定方法

1 先物取引の時価については、以下のように評価しております。
原則として、直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または終値で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、最も近い終値や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2 先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。

3 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

※上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものではありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)	[2024 年 4 月 25 日現在]

1 口当たり純資産額	1. 2596 円
(1 万口当たり純資産額)	(12, 596 円)

附属明細表

第 1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	第 4 4 8 回利付国債 (2 年)	1, 800, 000, 000	1, 798, 254, 000	
	第 4 4 9 回利付国債 (2 年)	3, 720, 000, 000	3, 716, 094, 000	
	第 4 5 0 回利付国債 (2 年)	1, 300, 000, 000	1, 298, 466, 000	
	第 4 5 1 回利付国債 (2 年)	5, 800, 000, 000	5, 790, 836, 000	
	第 4 5 2 回利付国債 (2 年)	3, 100, 000, 000	3, 093, 707, 000	
	第 4 5 3 回利付国債 (2 年)	4, 600, 000, 000	4, 588, 454, 000	
	第 4 5 4 回利付国債 (2 年)	2, 750, 000, 000	2, 745, 820, 000	
	第 4 5 5 回利付国債 (2 年)	1, 550, 000, 000	1, 544, 559, 500	
	第 4 5 6 回利付国債 (2 年)	5, 100, 000, 000	5, 087, 556, 000	
	第 4 5 7 回利付国債 (2 年)	7, 010, 000, 000	6, 990, 231, 800	
	第 4 5 8 回利付国債 (2 年)	6, 400, 000, 000	6, 391, 744, 000	
	第 1 4 4 回利付国債 (5 年)	6, 380, 000, 000	6, 379, 617, 200	
	第 1 4 5 回利付国債 (5 年)	6, 410, 000, 000	6, 404, 615, 600	
	第 1 4 6 回利付国債 (5 年)	4, 450, 000, 000	4, 441, 189, 000	
	第 1 4 7 回利付国債 (5 年)	5, 830, 000, 000	5, 801, 316, 400	
	第 1 4 8 回利付国債 (5 年)	7, 900, 000, 000	7, 852, 679, 000	
	第 1 4 9 回利付国債 (5 年)	11, 570, 000, 000	11, 491, 208, 300	
	第 1 5 0 回利付国債 (5 年)	1, 630, 000, 000	1, 617, 334, 900	
	第 1 5 1 回利付国債 (5 年)	50, 000, 000	49, 561, 500	
	第 1 5 2 回利付国債 (5 年)	5, 880, 000, 000	5, 844, 484, 800	
	第 1 5 3 回利付国債 (5 年)	5, 620, 000, 000	5, 563, 912, 400	
	第 1 5 4 回利付国債 (5 年)	8, 830, 000, 000	8, 757, 240, 800	
	第 1 5 5 回利付国債 (5 年)	2, 850, 000, 000	2, 843, 302, 500	
	第 1 5 6 回利付国債 (5 年)	8, 050, 000, 000	8, 002, 102, 500	
	第 1 5 7 回利付国債 (5 年)	2, 020, 000, 000	2, 005, 254, 000	
	第 1 5 8 回利付国債 (5 年)	8, 740, 000, 000	8, 642, 636, 400	

第 1 5 9 回利付国債（5 年）	1,980,000,000	1,954,933,200	
第 1 6 0 回利付国債（5 年）	2,850,000,000	2,825,547,000	
第 1 6 1 回利付国債（5 年）	3,820,000,000	3,802,848,200	
第 1 6 2 回利付国債（5 年）	190,000,000	188,808,700	
第 1 6 3 回利付国債（5 年）	13,900,000,000	13,872,895,000	
第 1 6 4 回利付国債（5 年）	1,900,000,000	1,876,212,000	
第 1 6 5 回利付国債（5 年）	5,600,000,000	5,555,368,000	
第 1 6 6 回利付国債（5 年）	2,800,000,000	2,791,068,000	
第 1 回利付国債（4 0 年）	2,105,000,000	2,355,389,750	
第 2 回利付国債（4 0 年）	1,335,000,000	1,437,928,500	
第 3 回利付国債（4 0 年）	1,668,000,000	1,789,013,400	
第 4 回利付国債（4 0 年）	1,838,000,000	1,964,123,560	
第 5 回利付国債（4 0 年）	1,525,000,000	1,559,907,250	
第 6 回利付国債（4 0 年）	1,230,000,000	1,227,699,900	
第 7 回利付国債（4 0 年）	1,540,000,000	1,461,752,600	
第 8 回利付国債（4 0 年）	2,110,000,000	1,848,803,100	
第 9 回利付国債（4 0 年）	3,630,000,000	2,301,674,100	
第 1 0 回利付国債（4 0 年）	3,000,000,000	2,234,340,000	
第 1 1 回利付国債（4 0 年）	3,080,000,000	2,193,699,200	
第 1 2 回利付国債（4 0 年）	2,570,000,000	1,613,497,400	
第 1 3 回利付国債（4 0 年）	3,170,000,000	1,959,377,000	
第 1 4 回利付国債（4 0 年）	3,590,000,000	2,367,892,200	
第 1 5 回利付国債（4 0 年）	4,200,000,000	3,054,198,000	
第 1 6 回利付国債（4 0 年）	3,400,000,000	2,707,488,000	
第 3 3 9 回利付国債（1 0 年）	4,020,000,000	4,033,627,800	
第 3 4 0 回利付国債（1 0 年）	3,470,000,000	3,481,624,500	
第 3 4 1 回利付国債（1 0 年）	3,320,000,000	3,324,349,200	
第 3 4 2 回利付国債（1 0 年）	2,570,000,000	2,561,981,600	
第 3 4 3 回利付国債（1 0 年）	4,870,000,000	4,850,714,800	
第 3 4 4 回利付国債（1 0 年）	4,620,000,000	4,599,025,200	
第 3 4 5 回利付国債（1 0 年）	6,340,000,000	6,306,588,200	
第 3 4 6 回利付国債（1 0 年）	6,130,000,000	6,092,974,800	
第 3 4 7 回利付国債（1 0 年）	5,700,000,000	5,659,986,000	
第 3 4 8 回利付国債（1 0 年）	4,970,000,000	4,929,047,200	
第 3 4 9 回利付国債（1 0 年）	6,090,000,000	6,031,779,600	
第 3 5 0 回利付国債（1 0 年）	6,530,000,000	6,457,255,800	

第3 5 1 回利付国債（10年）	4,870,000,000	4,808,345,800	
第3 5 2 回利付国債（10年）	4,110,000,000	4,048,761,000	
第3 5 3 回利付国債（10年）	4,630,000,000	4,551,984,500	
第3 5 4 回利付国債（10年）	6,320,000,000	6,200,552,000	
第3 5 5 回利付国債（10年）	6,040,000,000	5,917,146,400	
第3 5 6 回利付国債（10年）	8,080,000,000	7,905,795,200	
第3 5 7 回利付国債（10年）	5,550,000,000	5,420,518,500	
第3 5 8 回利付国債（10年）	9,940,000,000	9,687,126,400	
第3 5 9 回利付国債（10年）	10,250,000,000	9,966,587,500	
第3 6 0 回利付国債（10年）	6,340,000,000	6,150,180,400	
第3 6 1 回利付国債（10年）	8,810,000,000	8,522,705,900	
第3 6 2 回利付国債（10年）	8,240,000,000	7,948,633,600	
第3 6 3 回利付国債（10年）	6,320,000,000	6,078,323,200	
第3 6 4 回利付国債（10年）	9,170,000,000	8,788,894,800	
第3 6 5 回利付国債（10年）	11,820,000,000	11,292,591,600	
第3 6 6 回利付国債（10年）	6,090,000,000	5,846,765,400	
第3 6 7 回利付国債（10年）	8,390,000,000	8,032,418,200	
第3 6 8 回利付国債（10年）	9,730,000,000	9,288,549,900	
第3 6 9 回利付国債（10年）	8,320,000,000	8,124,563,200	
第3 7 0 回利付国債（10年）	9,000,000,000	8,768,340,000	
第3 7 1 回利付国債（10年）	8,110,000,000	7,810,092,200	
第3 7 2 回利付国債（10年）	6,220,000,000	6,195,617,600	
第3 7 3 回利付国債（10年）	9,680,000,000	9,443,033,600	
第1 回利付国債（30年）	196,000,000	219,945,320	
第2 回利付国債（30年）	268,000,000	296,638,480	
第3 回利付国債（30年）	307,000,000	338,931,070	
第4 回利付国債（30年）	252,000,000	289,457,280	
第5 回利付国債（30年）	238,000,000	263,632,600	
第6 回利付国債（30年）	339,000,000	381,663,150	
第7 回利付国債（30年）	339,000,000	380,554,620	
第8 回利付国債（30年）	302,000,000	327,679,060	
第9 回利付国債（30年）	206,000,000	216,613,120	
第10 回利付国債（30年）	398,000,000	408,256,460	
第11 回利付国債（30年）	237,000,000	255,294,030	
第12 回利付国債（30年）	325,000,000	361,786,750	
第13 回利付国債（30年）	595,000,000	657,498,800	

第 1 4 回利付国債（30年）	683,000,000	780,723,640	
第 1 5 回利付国債（30年）	686,000,000	791,397,040	
第 1 6 回利付国債（30年）	547,000,000	631,752,180	
第 1 7 回利付国債（30年）	577,000,000	661,126,600	
第 1 8 回利付国債（30年）	687,000,000	780,521,310	
第 1 9 回利付国債（30年）	593,000,000	674,051,240	
第 2 0 回利付国債（30年）	655,000,000	759,059,850	
第 2 1 回利付国債（30年）	529,000,000	602,023,160	
第 2 2 回利付国債（30年）	1,975,000,000	2,291,217,250	
第 2 3 回利付国債（30年）	194,000,000	225,160,280	
第 2 4 回利付国債（30年）	981,000,000	1,138,960,620	
第 2 5 回利付国債（30年）	1,287,000,000	1,465,030,710	
第 2 6 回利付国債（30年）	1,014,000,000	1,166,191,260	
第 2 7 回利付国債（30年）	760,000,000	883,249,200	
第 2 8 回利付国債（30年）	2,926,000,000	3,399,339,020	
第 2 9 回利付国債（30年）	1,630,000,000	1,870,196,800	
第 3 0 回利付国債（30年）	1,721,000,000	1,947,948,270	
第 3 1 回利付国債（30年）	2,223,000,000	2,481,334,830	
第 3 2 回利付国債（30年）	1,989,000,000	2,243,651,670	
第 3 3 回利付国債（30年）	1,227,000,000	1,328,742,840	
第 3 4 回利付国債（30年）	2,231,000,000	2,474,892,920	
第 3 5 回利付国債（30年）	3,179,000,000	3,421,939,180	
第 3 6 回利付国債（30年）	2,579,000,000	2,768,762,820	
第 3 7 回利付国債（30年）	2,717,000,000	2,865,456,880	
第 3 8 回利付国債（30年）	1,590,000,000	1,644,489,300	
第 3 9 回利付国債（30年）	1,360,000,000	1,426,068,800	
第 4 0 回利付国債（30年）	1,720,000,000	1,770,929,200	
第 4 1 回利付国債（30年）	1,210,000,000	1,222,596,100	
第 4 2 回利付国債（30年）	1,820,000,000	1,834,996,800	
第 4 3 回利付国債（30年）	2,320,000,000	2,333,989,600	
第 4 4 回利付国債（30年）	2,230,000,000	2,240,168,800	
第 4 5 回利付国債（30年）	1,940,000,000	1,877,803,600	
第 4 6 回利付国債（30年）	2,380,000,000	2,299,484,600	
第 4 7 回利付国債（30年）	2,890,000,000	2,838,413,500	
第 4 8 回利付国債（30年）	2,100,000,000	1,983,996,000	
第 4 9 回利付国債（30年）	2,360,000,000	2,225,055,200	

第50回利付国債（30年）	2,710,000,000	2,254,232,200	
第51回利付国債（30年）	2,460,000,000	1,813,856,400	
第52回利付国債（30年）	2,490,000,000	1,919,565,900	
第53回利付国債（30年）	2,490,000,000	1,957,214,700	
第54回利付国債（30年）	2,040,000,000	1,673,922,000	
第55回利付国債（30年）	2,240,000,000	1,832,028,800	
第56回利付国債（30年）	2,810,000,000	2,290,712,000	
第57回利付国債（30年）	2,340,000,000	1,901,320,200	
第58回利付国債（30年）	2,320,000,000	1,877,413,600	
第59回利付国債（30年）	2,410,000,000	1,895,151,700	
第60回利付国債（30年）	1,730,000,000	1,423,755,400	
第61回利付国債（30年）	1,940,000,000	1,514,829,600	
第62回利付国債（30年）	1,850,000,000	1,364,930,000	
第63回利付国債（30年）	2,620,000,000	1,871,544,600	
第64回利付国債（30年）	2,330,000,000	1,656,000,900	
第65回利付国債（30年）	1,510,000,000	1,067,796,500	
第66回利付国債（30年）	1,900,000,000	1,336,840,000	
第67回利付国債（30年）	2,740,000,000	2,030,778,400	
第68回利付国債（30年）	2,540,000,000	1,873,758,000	
第69回利付国債（30年）	2,370,000,000	1,790,772,000	
第70回利付国債（30年）	2,690,000,000	2,025,247,200	
第71回利付国債（30年）	2,610,000,000	1,957,839,300	
第72回利付国債（30年）	2,410,000,000	1,801,209,900	
第73回利付国債（30年）	2,030,000,000	1,511,659,800	
第74回利付国債（30年）	3,040,000,000	2,453,857,600	
第75回利付国債（30年）	2,370,000,000	2,061,900,000	
第76回利付国債（30年）	2,420,000,000	2,155,034,200	
第77回利付国債（30年）	2,690,000,000	2,510,012,100	
第78回利付国債（30年）	3,260,000,000	2,893,804,200	
第79回利付国債（30年）	2,030,000,000	1,710,457,700	
第80回利付国債（30年）	2,800,000,000	2,726,584,000	
第81回利付国債（30年）	2,830,000,000	2,624,174,100	
第78回利付国債（20年）	310,000,000	316,392,200	
第79回利付国債（20年）	150,000,000	153,265,500	
第80回利付国債（20年）	585,000,000	598,408,200	
第81回利付国債（20年）	250,000,000	256,437,500	

第 8 2 回利付国債（20年）	1,082,000,000	1,111,376,300	
第 8 3 回利付国債（20年）	395,000,000	407,221,300	
第 8 4 回利付国債（20年）	880,000,000	905,784,000	
第 8 5 回利付国債（20年）	520,000,000	538,075,200	
第 8 6 回利付国債（20年）	1,047,000,000	1,087,351,380	
第 8 7 回利付国債（20年）	420,000,000	435,393,000	
第 8 8 回利付国債（20年）	1,264,000,000	1,318,579,520	
第 8 9 回利付国債（20年）	340,000,000	353,953,600	
第 9 0 回利付国債（20年）	1,270,000,000	1,328,026,300	
第 9 1 回利付国債（20年）	548,000,000	574,347,840	
第 9 2 回利付国債（20年）	1,282,000,000	1,342,882,180	
第 9 3 回利付国債（20年）	190,000,000	199,253,000	
第 9 4 回利付国債（20年）	875,000,000	920,123,750	
第 9 5 回利付国債（20年）	1,107,000,000	1,175,545,440	
第 9 6 回利付国債（20年）	340,000,000	358,931,200	
第 9 7 回利付国債（20年）	573,000,000	608,950,020	
第 9 8 回利付国債（20年）	610,000,000	646,221,800	
第 9 9 回利付国債（20年）	1,480,000,000	1,573,106,800	
第 1 0 0 回利付国債（20年）	1,030,000,000	1,102,223,600	
第 1 0 1 回利付国債（20年）	723,000,000	779,249,400	
第 1 0 2 回利付国債（20年）	520,000,000	562,572,400	
第 1 0 3 回利付国債（20年）	760,000,000	819,120,400	
第 1 0 4 回利付国債（20年）	610,000,000	652,468,200	
第 1 0 5 回利付国債（20年）	920,000,000	986,378,000	
第 1 0 6 回利付国債（20年）	571,000,000	614,670,080	
第 1 0 7 回利付国債（20年）	607,000,000	652,336,830	
第 1 0 8 回利付国債（20年）	1,000,000,000	1,065,580,000	
第 1 0 9 回利付国債（20年）	560,000,000	598,057,600	
第 1 1 0 回利付国債（20年）	876,000,000	943,916,280	
第 1 1 1 回利付国債（20年）	861,000,000	935,200,980	
第 1 1 2 回利付国債（20年）	1,050,000,000	1,135,207,500	
第 1 1 3 回利付国債（20年）	922,000,000	1,000,130,280	
第 1 1 4 回利付国債（20年）	1,600,000,000	1,740,704,000	
第 1 1 5 回利付国債（20年）	944,000,000	1,032,207,360	
第 1 1 6 回利付国債（20年）	461,000,000	505,320,540	
第 1 1 7 回利付国債（20年）	1,320,000,000	1,439,354,400	

第 1 1 8 回利付国債（20年）	520,000,000	565,193,200	
第 1 1 9 回利付国債（20年）	400,000,000	430,000,000	
第 1 2 0 回利付国債（20年）	780,000,000	828,968,400	
第 1 2 1 回利付国債（20年）	1,299,000,000	1,407,024,840	
第 1 2 2 回利付国債（20年）	100,000,000	107,697,000	
第 1 2 3 回利付国債（20年）	1,318,000,000	1,446,768,600	
第 1 2 4 回利付国債（20年）	1,240,000,000	1,353,199,600	
第 1 2 5 回利付国債（20年）	1,844,000,000	2,040,109,400	
第 1 2 6 回利付国債（20年）	200,000,000	218,548,000	
第 1 2 7 回利付国債（20年）	440,000,000	477,888,400	
第 1 2 8 回利付国債（20年）	1,974,000,000	2,146,270,980	
第 1 2 9 回利付国債（20年）	280,000,000	302,517,600	
第 1 3 0 回利付国債（20年）	1,862,000,000	2,012,524,080	
第 1 3 1 回利付国債（20年）	420,000,000	450,987,600	
第 1 3 2 回利付国債（20年）	187,000,000	200,946,460	
第 1 3 3 回利付国債（20年）	2,320,000,000	2,509,892,000	
第 1 3 4 回利付国債（20年）	4,545,000,000	4,921,007,850	
第 1 3 5 回利付国債（20年）	50,000,000	53,762,500	
第 1 3 6 回利付国債（20年）	190,000,000	202,798,400	
第 1 3 7 回利付国債（20年）	4,342,000,000	4,671,384,120	
第 1 3 8 回利付国債（20年）	160,000,000	169,608,000	
第 1 3 9 回利付国債（20年）	310,000,000	331,002,500	
第 1 4 0 回利付国債（20年）	2,817,000,000	3,032,106,120	
第 1 4 1 回利付国債（20年）	1,120,000,000	1,205,948,800	
第 1 4 2 回利付国債（20年）	3,090,000,000	3,352,248,300	
第 1 4 3 回利付国債（20年）	1,740,000,000	1,859,485,800	
第 1 4 4 回利付国債（20年）	1,520,000,000	1,611,063,200	
第 1 4 5 回利付国債（20年）	3,100,000,000	3,339,289,000	
第 1 4 6 回利付国債（20年）	3,420,000,000	3,684,331,800	
第 1 4 7 回利付国債（20年）	3,450,000,000	3,684,082,500	
第 1 4 8 回利付国債（20年）	3,360,000,000	3,554,510,400	
第 1 4 9 回利付国債（20年）	4,180,000,000	4,419,430,400	
第 1 5 0 回利付国債（20年）	4,800,000,000	5,021,088,000	
第 1 5 1 回利付国債（20年）	4,330,000,000	4,436,821,100	
第 1 5 2 回利付国債（20年）	3,980,000,000	4,070,226,600	
第 1 5 3 回利付国債（20年）	4,790,000,000	4,941,555,600	

第 1 5 4 回利付国債（20年）	4,160,000,000	4,240,787,200	
第 1 5 5 回利付国債（20年）	4,720,000,000	4,700,364,800	
第 1 5 6 回利付国債（20年）	3,100,000,000	2,871,654,000	
第 1 5 7 回利付国債（20年）	4,530,000,000	4,075,505,100	
第 1 5 8 回利付国債（20年）	3,760,000,000	3,496,612,000	
第 1 5 9 回利付国債（20年）	3,400,000,000	3,189,914,000	
第 1 6 0 回利付国債（20年）	4,430,000,000	4,194,279,700	
第 1 6 1 回利付国債（20年）	3,720,000,000	3,464,510,400	
第 1 6 2 回利付国債（20年）	4,580,000,000	4,247,995,800	
第 1 6 3 回利付国債（20年）	3,550,000,000	3,278,957,500	
第 1 6 4 回利付国債（20年）	3,890,000,000	3,527,802,100	
第 1 6 5 回利付国債（20年）	3,810,000,000	3,439,515,600	
第 1 6 6 回利付国債（20年）	4,060,000,000	3,753,064,000	
第 1 6 7 回利付国債（20年）	3,710,000,000	3,316,109,300	
第 1 6 8 回利付国債（20年）	3,800,000,000	3,329,484,000	
第 1 6 9 回利付国債（20年）	3,140,000,000	2,693,115,200	
第 1 7 0 回利付国債（20年）	2,870,000,000	2,448,253,500	
第 1 7 1 回利付国債（20年）	3,070,000,000	2,604,649,400	
第 1 7 2 回利付国債（20年）	3,790,000,000	3,252,691,700	
第 1 7 3 回利付国債（20年）	3,550,000,000	3,030,457,500	
第 1 7 4 回利付国債（20年）	6,120,000,000	5,199,552,000	
第 1 7 5 回利付国債（20年）	4,020,000,000	3,456,717,600	
第 1 7 6 回利付国債（20年）	3,590,000,000	3,072,860,500	
第 1 7 7 回利付国債（20年）	3,790,000,000	3,169,387,500	
第 1 7 8 回利付国債（20年）	4,070,000,000	3,448,795,900	
第 1 7 9 回利付国債（20年）	3,490,000,000	2,943,326,400	
第 1 8 0 回利付国債（20年）	3,680,000,000	3,261,289,600	
第 1 8 1 回利付国債（20年）	4,000,000,000	3,593,520,000	
第 1 8 2 回利付国債（20年）	3,760,000,000	3,485,256,800	
第 1 8 3 回利付国債（20年）	3,320,000,000	3,226,907,200	
第 1 8 4 回利付国債（20年）	4,050,000,000	3,729,078,000	
第 1 8 5 回利付国債（20年）	4,630,000,000	4,247,052,700	
第 1 8 6 回利付国債（20年）	3,700,000,000	3,626,407,000	
第 1 8 7 回利付国債（20年）	3,320,000,000	3,133,582,000	
第 1 回大韓民国	100,000,000	100,038,000	
第 2 回大韓民国	100,000,000	100,359,000	

国債証券 合計		808,274,000,000	777,124,462,100	
地方債証券	第7回東京都公募公債（20年）	100,000,000	102,677,000	
	第7回東京都公募公債（30年）	80,000,000	91,638,400	
	第10回東京都公募公債（30年）	100,000,000	111,485,000	
	第12回東京都公募公債（20年）	100,000,000	106,277,000	
	第20回東京都公募公債（20年）	80,000,000	86,308,800	
	第21回東京都公募公債（20年）	80,000,000	86,957,600	
	第28回東京都公募公債（20年）	100,000,000	105,900,000	
	第33回東京都公募公債（20年）	100,000,000	88,609,000	
	第747回東京都公募公債	500,000,000	501,570,000	
	第750回東京都公募公債	200,000,000	200,406,000	
	第751回東京都公募公債	500,000,000	500,410,000	
	第757回東京都公募公債	150,000,000	148,863,000	
	第758回東京都公募公債	150,000,000	148,863,000	
	第782回東京都公募公債	100,000,000	98,880,000	
	第783回東京都公募公債	400,000,000	395,360,000	
	第807回東京都公募公債	200,000,000	193,384,000	
	第809回東京都公募公債	100,000,000	96,475,000	
	平成27年度第5回北海道公募公債	100,000,000	100,432,000	
	平成30年度第14回北海道公募公債	100,000,000	98,291,000	
	令和3年度第14回北海道公募公債（5年）	400,000,000	395,584,000	
	第32回1号宮城県公募公債	200,000,000	198,646,000	
	第36回2号宮城県公募公債	342,000,000	330,180,480	
	第2回神奈川県公募公債（30年）	180,000,000	213,955,200	
	第3回神奈川県公募公債（20年）	500,000,000	511,015,000	
	第4回神奈川県公募公債（30年）	100,000,000	116,112,000	
	第19回神奈川県公募公債（20年）	100,000,000	107,606,000	
	第20回神奈川県公募公債（20年）	500,000,000	533,830,000	
	第27回神奈川県公募公債（20年）	100,000,000	103,457,000	
	第226回神奈川県公募公債	100,000,000	99,398,000	
	第234回神奈川県公募公債	100,000,000	98,978,000	
	第243回神奈川県公募公債	100,000,000	97,020,000	
	第256回神奈川県公募公債	350,000,000	335,562,500	
	第7回大阪府公募公債（20年）	220,000,000	236,777,200	
	第11回大阪府公募公債（20年）	100,000,000	106,704,000	
	第179回大阪府公募公債（5年）	100,000,000	99,407,000	

第184回大阪府公募公債（5年）	120,000,000	119,004,000	
第186回大阪府公募公債（5年）	300,000,000	297,324,000	
第191回大阪府公募公債（5年）	160,000,000	158,276,800	
第400回大阪府公募公債	136,000,000	136,534,480	
第407回大阪府公募公債	200,000,000	198,866,000	
第410回大阪府公募公債	200,000,000	198,280,000	
第415回大阪府公募公債	100,000,000	99,344,000	
第417回大阪府公募公債	300,000,000	298,716,000	
第418回大阪府公募公債	800,000,000	795,712,000	
第420回大阪府公募公債	100,000,000	99,252,000	
第426回大阪府公募公債	100,000,000	98,998,000	
第435回大阪府公募公債	130,000,000	128,208,600	
第439回大阪府公募公債	100,000,000	98,327,000	
第455回大阪府公募公債	148,000,000	143,434,200	
第460回大阪府公募公債	194,000,000	187,202,240	
第464回大阪府公募公債	800,000,000	766,560,000	
第465回大阪府公募公債	500,000,000	480,280,000	
第467回大阪府公募公債	200,000,000	192,320,000	
第471回大阪府公募公債	97,000,000	92,301,320	
第483回大阪府公募公債	200,000,000	198,678,000	
平成26年度第2回京都府公募公債（15年）	200,000,000	204,726,000	
平成26年度第5回京都府公募公債（20年）	100,000,000	104,099,000	
令和6年度第1回京都府公募公債（5年）	200,000,000	199,146,000	
第1回兵庫県公募公債（15年）	400,000,000	411,424,000	
第2回兵庫県公募公債（20年）	300,000,000	319,380,000	
第2回兵庫県公募公債（30年）	90,000,000	100,799,100	
第4回兵庫県公募公債（12年）	300,000,000	302,373,000	
第5回兵庫県公募公債（12年）	400,000,000	403,372,000	
第5回兵庫県公募公債（15年）	200,000,000	206,496,000	
第6回兵庫県公募公債（15年）	100,000,000	103,464,000	
第9回兵庫県公募公債（15年）	800,000,000	817,400,000	
第9回兵庫県公募公債（20年）	200,000,000	217,866,000	
第27回兵庫県公募公債（20年）	200,000,000	182,298,000	
平成28年度第29回兵庫県公募公債	100,000,000	99,547,000	
令和5年度第4回兵庫県公募公債（グリーン）	100,000,000	97,811,000	
令和5年度第5回兵庫県公募公債	100,000,000	98,874,000	

令和6年度第1回兵庫県公募公債（5年）	100,000,000	99,858,000	
令和6年度第2回兵庫県公募公債	200,000,000	199,230,000	
第1回静岡県公募公債（15年）	100,000,000	103,177,000	
第6回静岡県公募公債（15年）	300,000,000	307,098,000	
第11回静岡県公募公債（20年）	550,000,000	590,221,500	
第14回静岡県公募公債（20年）	100,000,000	106,996,000	
平成27年度第10回静岡県公募公債	400,000,000	401,176,000	
令和2年度第15回静岡県公募公債（5年）	120,000,000	119,198,400	
令和2年度第13回静岡県公募公債（5年）	120,000,000	119,198,400	
平成20年度第8回愛知県公募公債（20年）	200,000,000	213,524,000	
平成21年度第5回愛知県公募公債（20年）	700,000,000	759,738,000	
平成23年度第13回愛知県公募公債	500,000,000	514,395,000	
平成24年度第14回愛知県公募公債（15年）	300,000,000	309,159,000	
平成27年度第7回愛知県公募公債	100,000,000	100,414,000	
平成27年度第16回愛知県公募公債	100,000,000	100,222,000	
平成29年度第5回愛知県公募公債	600,000,000	595,860,000	
平成30年度第5回愛知県公募公債	100,000,000	98,729,000	
平成30年度第8回愛知県公募公債	200,000,000	197,710,000	
令和3年度第18回愛知県公募公債	100,000,000	95,861,000	
令和5年度第8回愛知県公募公債	100,000,000	98,503,000	
令和6年度第1回愛知県公募公債（5年）	100,000,000	99,550,000	
平成23年度第1回広島県公募公債（20年）	100,000,000	107,545,000	
平成28年度第1回広島県公募公債	100,000,000	99,380,000	
平成28年度第4回広島県公募公債	100,000,000	99,155,000	
平成28年度第1回広島県公募公債（20年）	100,000,000	90,819,000	
平成30年度第4回広島県公募公債	200,000,000	197,386,000	
令和3年度第7回広島県公募公債	100,000,000	95,645,000	
第2回埼玉県公募公債（サステナビリティ）	100,000,000	98,683,000	
第3回埼玉県公募公債	200,000,000	198,782,000	
第9回埼玉県公募公債（20年）	200,000,000	217,810,000	
第10回埼玉県公募公債（20年）	100,000,000	107,972,000	
第14回埼玉県公募公債（20年）	200,000,000	210,148,000	
第16回埼玉県公募公債（20年）	100,000,000	100,958,000	
平成29年度第1回埼玉県公募公債	100,000,000	99,395,000	
平成29年度第3回埼玉県公募公債	200,000,000	198,540,000	
平成30年度第4回埼玉県公募公債	100,000,000	98,773,000	

令和２年度第１回埼玉県公募公債	100,000,000	97,043,000	
令和３年度第２回埼玉県公募公債（５年）	110,000,000	109,225,600	
平成１９年度第１回福岡県公募公債（３０年）	70,000,000	81,295,900	
平成２０年度第１回福岡県公募公債（３０年）	80,000,000	89,245,600	
平成２１年度第２回福岡県公募公債（２０年）	200,000,000	218,182,000	
平成２２年度第２回福岡県公募公債（２０年）	800,000,000	874,096,000	
平成２３年度第１回福岡県公募公債（１５年）	700,000,000	719,768,000	
平成２７年度第７回福岡県公募公債	100,000,000	100,238,000	
令和２年度第４回福岡県公募公債	200,000,000	193,380,000	
令和５年度第１回福岡県公募公債（グリーン）	100,000,000	98,033,000	
令和５年度第３回福岡県公募公債	100,000,000	97,814,000	
第９回千葉県公募公債（２０年）	80,000,000	85,828,800	
第１３回千葉県公募公債（２０年）	300,000,000	320,433,000	
第１４回千葉県公募公債（２０年）	100,000,000	102,008,000	
平成２７年度第３回千葉県公募公債	200,000,000	200,752,000	
平成２７年度第６回千葉県公募公債	500,000,000	501,235,000	
平成２７年度第９回千葉県公募公債	200,000,000	198,976,000	
平成２８年度第３回千葉県公募公債	400,000,000	397,012,000	
平成３０年度第６回千葉県公募公債	100,000,000	98,032,000	
令和元年度第６回千葉県公募公債	100,000,000	97,250,000	
令和５年度第７回千葉県公募公債（サステナビリティ）	100,000,000	98,286,000	
令和５年度第８回千葉県公募公債	100,000,000	99,347,000	
令和６年度第１回千葉県公募公債	300,000,000	296,850,000	
平成２７年度第２回新潟県公募公債	100,000,000	99,726,000	
令和４年度第１回長野県公募公債	300,000,000	287,943,000	
令和５年度第２回長野県公募公債	100,000,000	98,459,000	
第２回群馬県公募公債（２０年）	100,000,000	108,853,000	
第７回群馬県公募公債（２０年）	100,000,000	90,168,000	
平成２７年度第１回岐阜県公募公債	300,000,000	301,113,000	
令和２年度第２回岐阜県公募公債（５年）	100,000,000	99,557,000	
平成２７年度第１回大分県公募公債	203,400,000	204,000,030	
第２回共同発行市場公募地方債（グリーン）	200,000,000	198,332,000	
第１４８回共同発行市場公募地方債	500,000,000	502,090,000	
第１５０回共同発行市場公募地方債	200,000,000	200,720,000	
第１５１回共同発行市場公募地方債	200,000,000	200,570,000	

第 1 5 2 回共同発行市場公募地方債	700,000,000	702,163,000	
第 1 5 3 回共同発行市場公募地方債	200,000,000	200,494,000	
第 1 5 7 回共同発行市場公募地方債	500,000,000	497,130,000	
第 1 5 8 回共同発行市場公募地方債	200,000,000	198,760,000	
第 1 5 9 回共同発行市場公募地方債	500,000,000	496,610,000	
第 1 7 2 回共同発行市場公募地方債	100,000,000	99,359,000	
第 1 7 3 回共同発行市場公募地方債	400,000,000	397,104,000	
第 1 8 5 回共同発行市場公募地方債	300,000,000	296,454,000	
第 1 9 3 回共同発行市場公募地方債	100,000,000	97,619,000	
第 1 9 8 回共同発行市場公募地方債	100,000,000	97,111,000	
第 2 0 5 回共同発行市場公募地方債	100,000,000	97,026,000	
第 2 0 6 回共同発行市場公募地方債	100,000,000	96,938,000	
第 2 0 7 回共同発行市場公募地方債	100,000,000	96,983,000	
第 2 3 2 回共同発行市場公募地方債	450,000,000	432,972,000	
令和元年度第 3 回堺市公募公債	100,000,000	97,213,000	
平成 2 7 年度第 1 回長崎県公募公債	300,000,000	301,113,000	
平成 2 7 年度第 1 回佐賀県公募公債	500,000,000	501,395,000	
平成 2 9 年度第 1 回佐賀県公募公債	100,000,000	99,061,000	
平成 3 0 年度第 1 回福島県公募公債	100,000,000	98,711,000	
第 2 回滋賀県公募公債（サステナビリティ）	100,000,000	98,700,000	
令和元年度第 2 回栃木県公募公債	100,000,000	97,137,000	
令和 2 年度第 2 回栃木県公募公債	100,000,000	96,440,000	
令和 3 年度第 1 回熊本県公募公債（5 年）	200,000,000	198,294,000	
令和 5 年度第 2 回奈良県公募公債	200,000,000	197,242,000	
第 5 回大阪市公募公債（2 0 年）	100,000,000	108,404,000	
第 1 5 回大阪市公募公債（2 0 年）	100,000,000	109,259,000	
令和 2 年度第 3 回大阪市公募公債（5 年）	500,000,000	498,450,000	
第 1 回名古屋市公募公債（3 0 年）	100,000,000	114,703,000	
第 9 回名古屋市公募公債（2 0 年）	100,000,000	106,899,000	
第 9 回名古屋市公募公債（3 0 年）	90,000,000	95,985,900	
第 2 8 回名古屋市公募公債（5 年）	500,000,000	497,450,000	
第 4 9 1 回名古屋市公募公債	400,000,000	401,796,000	
第 5 1 1 回名古屋市公募公債	100,000,000	96,747,000	
第 1 回京都市公募公債（1 5 年）	100,000,000	100,482,000	
第 3 回京都市公募公債（2 0 年）	100,000,000	102,917,000	
第 5 回京都市公募公債（2 0 年）	50,000,000	52,589,500	

令和５年度第７回京都市公募公債（５年）	100,000,000	99,532,000	
平成１８年度第３回神戸市公募公債（２０年）	110,000,000	115,067,700	
平成２０年度第２４回神戸市公募公債（２０年）	200,000,000	213,888,000	
平成２２年度第４回神戸市公募公債	100,000,000	107,605,000	
平成２３年度第４回神戸市公募公債（２０年）	150,000,000	162,204,000	
令和６年度第１回神戸市公募公債（５年）	300,000,000	298,644,000	
第５回横浜市公募公債（２０年）	100,000,000	102,272,000	
第７回横浜市公募公債（２０年）	450,000,000	462,901,500	
第１９回横浜市公募公債（２０年）	200,000,000	216,814,000	
平成２７年度第２回横浜市公募公債	200,000,000	200,838,000	
平成２７年度第３回横浜市公募公債	400,000,000	401,548,000	
平成２７年度第４回横浜市公募公債	300,000,000	300,957,000	
第２７回横浜市公募公債（２０年）	100,000,000	105,949,000	
第３３回横浜市公募公債（２０年）	100,000,000	90,456,000	
第３５回横浜市公募公債（２０年）	500,000,000	455,115,000	
第５４回横浜市公募公債（５年）	300,000,000	298,671,000	
第６４回横浜市公募公債（５年）	200,000,000	199,100,000	
平成２２年度第８回札幌市公募公債（３０年）	80,000,000	88,413,600	
平成２３年度第３回札幌市公募公債	100,000,000	108,333,000	
平成２３年度第９回札幌市公募公債	600,000,000	618,174,000	
令和２年度第７回札幌市公募公債	200,000,000	192,496,000	
令和３年度第２回札幌市公募公債（５年）	100,000,000	99,200,000	
令和３年度第９回札幌市公募公債（５年）	500,000,000	495,485,000	
第７回川崎市公募公債（２０年）	100,000,000	107,610,000	
第１２回川崎市公募公債（２０年）	100,000,000	108,911,000	
第６２回川崎市公募公債（５年）	490,000,000	485,820,300	
第３回北九州市公募公債（サステナビリティ）	100,000,000	98,286,000	
第１７回北九州市公募公債（２０年）	100,000,000	104,875,000	
令和３年度第１回北九州市公募公債（５年）	200,000,000	198,172,000	
２０２０年度第９回福岡市公募公債（５年）	200,000,000	198,970,000	
２０２３年度第８回福岡市公募公債	100,000,000	98,610,000	
２０２４年度第１回福岡市公募公債（５年）	200,000,000	199,146,000	
令和３年度第４回千葉市公募公債	100,000,000	95,133,000	
令和５年度第４回千葉市公募公債（サステナビリティ）	100,000,000	98,874,000	
第２１回さいたま市公募公債	170,000,000	168,447,900	

	令和５年度第２回鹿児島県公募公債（５年）	100,000,000	99,532,000	
	令和２年度第２回徳島県公募公債	100,000,000	96,440,000	
	平成２８年度第１回山梨県公募公債	200,000,000	198,380,000	
	平成３０年度第１回山梨県公募公債	100,000,000	98,880,000	
	令和２年度第１回山梨県公募公債	700,000,000	675,787,000	
	第９６回愛知県・名古屋市折半保証名古屋高速道路債券	100,000,000	107,224,000	
地方債証券 合計		46,480,400,000	46,870,857,550	
特殊債券	第４回政府保証新関西国際空港債券	904,000,000	907,254,400	
	第１９回政府保証原子力損害賠償・廃炉等支援機構債券	500,000,000	496,375,000	
	第２１回政府保証原子力損害賠償・廃炉等支援機構債券	600,000,000	598,764,000	
	第６回神奈川県住宅供給公社債券	100,000,000	97,236,000	
	第３６回日本政策投資銀行債券（財投機関債）	30,000,000	31,598,700	
	第１回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	100,000,000	118,861,000	
	第８回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	140,000,000	145,355,000	
	第１７回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	300,000,000	313,533,000	
	第１８回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	30,000,000	35,024,700	
	第１９回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	200,000,000	229,138,000	
	第２０回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	200,000,000	210,660,000	
	第２２回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	110,000,000	124,408,900	
	第２３回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	300,000,000	318,204,000	
	第２７回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	200,000,000	212,578,000	
	第２８回道路債券（財投機関債）	100,000,000	116,226,000	
	第３３回道路債券（財投機関債）	300,000,000	351,525,000	
	第８３回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	150,000,000	161,478,000	
	第９５回日本高速道路保有・債務返済機構債券（財投機関債）	100,000,000	106,732,000	
	第１０１回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	111,549,000	
	第１０９回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	110,027,000	
	第１１６回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	104,129,000	

第118回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	107,857,000	
第145回日本高速道路保有・債務返済機構債券 (財投機関債)	100,000,000	94,481,000	
第148回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	107,514,000	
第150回日本高速道路保有・債務返済機構債券 (財投機関債)	300,000,000	298,908,000	
第153回日本高速道路保有・債務返済機構債券 (財投機関債)	100,000,000	97,456,000	
第158回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	105,992,000	
第160回日本高速道路保有・債務返済機構債券 (財投機関債)	100,000,000	100,887,000	
第162回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	107,177,000	
第165回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	103,220,000	
第226回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	103,705,000	
第249回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	101,000,000	101,366,630	
第251回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	100,460,000	
第258回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	100,205,000	
第263回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	200,000,000	200,296,000	
第266回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	100,018,000	
第269回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	200,000,000	199,342,000	
第273回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	300,000,000	298,053,000	
第276回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	300,000,000	297,942,000	
第348回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	98,697,000	
第443回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	300,000,000	295,995,000	
第1回地方公共団体金融機構債券(20年)(財投機関債)	50,000,000	54,140,500	
第4回公営企業債券(30年)(財投機関債)	100,000,000	117,640,000	
第11回地方公共団体金融機構債券(20年)(財投機関債)	100,000,000	107,070,000	
第13回地方公共団体金融機構債券(20年)(財投機関債)	100,000,000	109,034,000	
第14回地方公共団体金融機構債券(20年)(財投機関債)	80,000,000	87,567,200	

第16回地方公共団体金融機構債券（20年）（財投機関債）	80,000,000	85,803,200	
第17回公営企業債券（20年）（財投機関債）	150,000,000	155,593,500	
第22回公営企業債券（20年）（財投機関債）	1,000,000,000	1,057,710,000	
第23回地方公共団体金融機構債券（20年）（財投機関債）	100,000,000	106,117,000	
第24回公営企業債券（20年）（財投機関債）	300,000,000	320,655,000	
第24回地方公共団体金融機構債券（20年）（財投機関債）	200,000,000	212,564,000	
第27回地方公共団体金融機構債券（20年）（財投機関債）	50,000,000	53,506,500	
第29回地方公共団体金融機構債券（5年）（財投機関債）	500,000,000	495,135,000	
第44回地方公共団体金融機構債券（20年）（財投機関債）	100,000,000	101,159,000	
第73回政府保証地方公共団体金融機構債券	302,000,000	303,069,080	
第76回政府保証地方公共団体金融機構債券	400,000,000	401,160,000	
第77回政府保証地方公共団体金融機構債券	100,000,000	100,214,000	
第77回地方公共団体金融機構債券（財投機関債）	300,000,000	300,702,000	
第78回政府保証地方公共団体金融機構債券	150,000,000	150,271,500	
第81回政府保証地方公共団体金融機構債券	100,000,000	99,685,000	
第82回政府保証地方公共団体金融機構債券	674,000,000	670,097,540	
第83回政府保証地方公共団体金融機構債券	102,000,000	101,359,440	
F90回地方公共団体金融機構債券（財投機関債）	100,000,000	104,037,000	
第91回政府保証地方公共団体金融機構債券	1,300,000,000	1,290,653,000	
第94回政府保証地方公共団体金融機構債券	100,000,000	99,342,000	
第100回政府保証地方公共団体金融機構債券	325,000,000	321,512,750	
第101回政府保証地方公共団体金融機構債券	100,000,000	99,160,000	
第102回政府保証地方公共団体金融機構債券	131,000,000	129,805,280	
第108回政府保証地方公共団体金融機構債券	223,000,000	220,123,300	
第115回政府保証地方公共団体金融機構債券	200,000,000	196,688,000	
F131回地方公共団体金融機構債券（財投機関債）	70,000,000	73,609,200	
F134回地方公共団体金融機構債券（財投機関債）	300,000,000	309,360,000	
F151回地方公共団体金融機構債券（財投機関債）	100,000,000	102,960,000	
F203回地方公共団体金融機構債券（財投機関債）	200,000,000	204,056,000	
F234回地方公共団体金融機構債券（財投機関債）	100,000,000	104,441,000	
第27回首都高速道路	100,000,000	99,441,000	

第10回日本政策金融公庫（財投機関債）	80,000,000	86,796,000	
第15回日本政策金融公庫（財投機関債）	80,000,000	85,823,200	
第48回福祉医療機構債券（財投機関債）	400,000,000	397,064,000	
第54回福祉医療機構債券（財投機関債）	100,000,000	98,639,000	
第4回中部国際空港（財投機関債）	200,000,000	198,856,000	
第2回貸付債権担保T種住宅金融支援機構債券	29,143,000	28,801,444	
第3回貸付債権担保T種住宅金融支援機構債券	30,529,000	30,223,710	
第4回貸付債権担保T種住宅金融支援機構債券	35,284,000	34,800,962	
第8回貸付債権担保T種住宅金融支援機構債券	50,428,000	49,531,390	
第29回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	18,022,000	18,751,710	
第31回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	17,984,000	18,671,168	
第33回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	18,274,000	18,962,381	
第35回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	17,742,000	18,397,744	
第36回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	33,870,000	35,018,870	
第37回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	35,162,000	36,300,897	
第38回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	19,140,000	19,726,832	
第40回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	37,194,000	38,011,524	
第43回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	22,055,000	22,809,722	
第44回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	83,716,000	87,008,550	
第45回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	51,906,000	53,691,047	
第47回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	15,116,000	15,606,967	
第48回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	32,172,000	33,281,612	
第49回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	32,840,000	33,882,341	
第50回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	34,062,000	35,075,685	
第51回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	35,856,000	36,941,719	
第52回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	38,464,000	39,519,067	
第53回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	40,602,000	41,706,374	
第56回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	22,818,000	23,417,885	
第57回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	22,950,000	23,570,797	
第59回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	48,816,000	50,150,141	
第60回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	49,292,000	50,445,432	
第61回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	49,846,000	50,768,649	
第62回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	28,199,000	28,624,522	
第63回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	27,727,000	28,026,451	
第65回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	192,468,000	194,592,846	
第66回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	92,493,000	93,417,005	

第70回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	28,980,000	29,471,211	
第74回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	32,497,000	33,115,092	
第76回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	27,407,000	27,834,001	
第77回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	30,000,000	30,834,600	
第78回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	28,636,000	28,906,610	
第81回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	32,315,000	32,542,174	
第83回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	34,908,000	35,047,282	
第84回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	136,536,000	136,940,146	
第85回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	70,926,000	71,115,372	
第88回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	107,283,000	
第89回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	38,094,000	37,989,241	
第90回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	117,441,000	116,559,018	
第92回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	41,664,000	40,958,211	
第93回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	200,000,000	205,796,000	
第95回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	52,611,000	51,750,810	
第96回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	50,076,000	49,007,378	
第98回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	51,486,000	50,777,552	
第100回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	200,000,000	215,162,000	
第102回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	102,806,000	
第103回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	54,626,000	53,587,559	
第106回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	114,382,000	109,734,659	
第107回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	118,368,000	112,906,500	
第109回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	251,280,000	238,386,823	
第110回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	318,655,000	300,086,973	
第111回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	518,224,000	485,819,453	
第117回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	134,112,000	127,446,633	
第118回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	465,773,000	443,336,714	
第121回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	130,000,000	140,283,000	
第122回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	207,888,000	196,803,411	
第123回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	106,950,000	
第125回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	68,825,000	64,980,435	
第127回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	71,025,000	66,845,889	

第 1 2 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	69,669,000	65,730,611	
第 1 2 9 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	142,808,000	134,889,296	
第 1 3 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	142,682,000	134,440,687	
第 1 3 1 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	71,160,000	66,864,782	
第 1 3 2 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	70,528,000	66,297,730	
第 1 3 3 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	215,601,000	202,867,604	
第 1 3 4 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	72,403,000	67,893,017	
第 1 3 6 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	73,426,000	69,065,964	
第 1 3 7 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	147,642,000	139,143,726	
第 1 3 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	146,388,000	138,319,093	
第 1 4 3 回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	102,661,000	
第 1 4 7 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	155,224,000	142,753,303	
第 1 4 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	235,728,000	215,519,038	
第 1 5 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	240,297,000	220,571,019	
第 1 5 1 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	162,566,000	149,663,136	
第 1 5 2 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	80,675,000	74,727,639	
第 1 5 3 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	162,464,000	150,433,540	
第 1 6 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	83,949,000	77,776,230	
第 1 6 1 回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	100,722,000	
第 1 6 2 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	170,228,000	157,413,236	
第 1 6 4 回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	100,290,000	
第 1 6 5 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	85,734,000	79,263,655	
第 1 6 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	257,772,000	238,854,112	
第 1 6 9 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	174,876,000	161,779,536	
第 1 7 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	175,126,000	161,812,921	
第 1 7 1 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	177,236,000	162,927,737	
第 1 7 2 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	88,075,000	80,949,732	
第 1 7 4 回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	180,000,000	178,248,600	
第 1 7 5 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	90,058,000	83,072,200	
第 1 7 6 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	180,022,000	165,270,997	
第 1 7 7 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	180,162,000	166,534,546	
第 1 7 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	90,157,000	84,000,178	
第 1 7 9 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	180,880,000	167,979,638	
第 1 8 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	90,814,000	84,794,848	

第181回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	91,257,000	85,114,491	
第182回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	184,408,000	171,831,374	
第183回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	184,414,000	172,159,689	
第184回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	185,864,000	173,026,373	
第186回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	93,735,000	89,339,765	
第188回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	188,076,000	183,528,322	
第190回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	94,612,000	92,857,893	
第191回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	95,388,000	93,122,535	
第192回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	380,504,000	374,282,759	
第193回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	96,309,000	94,014,919	
第194回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	96,509,000	94,047,055	
第194回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	99,077,000	
第195回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	194,988,000	189,717,474	
第196回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	293,025,000	287,568,874	
第197回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	195,746,000	192,997,726	
第198回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	196,280,000	195,231,864	
第199回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	394,088,000	389,654,510	
第200回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	297,495,000	292,982,000	
第201回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	297,924,000	292,019,146	
第202回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	99,935,000	98,970,627	
第203回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	400,000,000	397,768,000	
第203回一般担保住宅金融支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	99,342,000	
第204回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	300,000,000	299,817,000	
第6回沖縄振興開発金融公庫債券（財投機関債）	50,000,000	51,026,000	
い第843号商工債券	200,000,000	199,322,000	
い第848号商工債券	100,000,000	99,303,000	
い第850号商工債券	300,000,000	297,522,000	
い第852号商工債券	100,000,000	99,030,000	
い第854号商工債券	500,000,000	494,600,000	
い第857号商工債券	100,000,000	98,789,000	
い第871号商工債券	200,000,000	197,704,000	
い第872号商工債券	400,000,000	396,624,000	
第376回信金中金債	100,000,000	99,230,000	
第32号商工債券（10年）	200,000,000	192,948,000	
第280号商工債券（3年）	200,000,000	198,596,000	

	第2回信金中金債（10年）	100,000,000	100,247,000	
	第7回国際協力機構債券（財投機関債）	70,000,000	75,652,500	
	第83回東日本高速道路	400,000,000	396,464,000	
	第111回東日本高速道路	200,000,000	199,388,000	
	第29回西日本高速道路	200,000,000	199,590,000	
	第56回西日本高速道路	900,000,000	896,607,000	
	第61回西日本高速道路	700,000,000	693,658,000	
	第72回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券（財投機関債）	100,000,000	101,273,000	
特殊債券 合計		36,477,812,000	36,413,223,958	
社債券	第19回フランス相互信用連合銀行	100,000,000	100,501,000	
	第29回フランス相互信用連合銀行	200,000,000	199,824,000	
	第35回フランス相互信用連合銀行	500,000,000	493,885,000	
	第38回フランス相互信用連合銀行	300,000,000	300,642,000	
	第25回ビー・ピー・シー・イー・エス・エー	100,000,000	98,327,000	
	第32回ビー・ピー・シー・イー・エス・エー	200,000,000	199,182,000	
	第33回ビー・ピー・シー・イー・エス・エー	200,000,000	197,936,000	
	第36回ビー・ピー・シー・イー・エス・エー	400,000,000	399,548,000	
	第1回サントナデル銀行（2019）	500,000,000	498,900,000	
	第12回新関西国際空港	100,000,000	101,752,000	
	第27回新関西国際空港	100,000,000	99,239,000	
	第32回成田国際空港	100,000,000	97,831,000	
	第1回国際石油開発帝石	100,000,000	99,135,000	
	第48回鹿島建設（サステナビリティ）	100,000,000	99,550,000	
	第10回明治ホールディングス（サステナビリティ）	200,000,000	198,154,000	
	第16回アサヒグループホールディングス	100,000,000	99,213,000	
	第19回アサヒグループホールディングス	400,000,000	398,468,000	
	第21回麒麟ホールディングス（ソーシャル）	300,000,000	296,682,000	
	第22回麒麟ホールディングス（ソーシャル）	100,000,000	99,605,000	
	第9回サントリーホールディングス	500,000,000	495,980,000	
	第22回味の素	100,000,000	99,707,000	
	第3回 キューピー	100,000,000	99,548,000	
	第13回日本たばこ産業	400,000,000	393,148,000	
	第16回日本たばこ産業	300,000,000	294,252,000	
	第6回ヒューリック	400,000,000	393,016,000	
	第13回ヒューリック	300,000,000	299,799,000	

第14回ヒューリック	300,000,000	299,805,000	
第24回森ヒルズリート投資法人（グリーン）	300,000,000	297,924,000	
第9回クラレ	100,000,000	99,137,000	
第56回住友化学	200,000,000	197,150,000	
第59回住友化学	200,000,000	195,906,000	
第3回三菱ケミカルグループ	500,000,000	497,540,000	
第4回野村総合研究所	100,000,000	98,414,000	
第12回野村総合研究所	200,000,000	198,308,000	
第6回花王	200,000,000	199,186,000	
第1回アステラス製薬	400,000,000	398,768,000	
第10回テルモ	300,000,000	299,799,000	
第17回Zホールディングス	100,000,000	99,026,000	
第22回Zホールディングス	200,000,000	197,504,000	
第7回住友三井オートサービス（サステナビリティ）	100,000,000	98,743,000	
第8回住友三井オートサービス（サステナビリティ）	100,000,000	99,619,000	
第12回日本電気硝子	100,000,000	98,272,000	
第4回新日本製鐵	200,000,000	198,244,000	
第36回ジェイ エフ イー ホールディングス	400,000,000	395,816,000	
第1回住友生命2023基金	400,000,000	394,528,000	
第14回LIXIL	200,000,000	197,968,000	
第1回日本郵政（グリーン）	100,000,000	98,680,000	
第4回日本郵政	500,000,000	497,585,000	
第9回住友重機械工業	200,000,000	199,868,000	
第30回ダイキン工業	200,000,000	195,914,000	
第22回パナソニック	100,000,000	98,157,000	
第24回パナソニックホールディングス	300,000,000	298,104,000	
第25回パナソニックホールディングス	800,000,000	800,424,000	
第40回ソニーグループ	600,000,000	596,808,000	
第18回デンソー	300,000,000	296,013,000	
第40回三菱重工業	300,000,000	296,241,000	
第14回三井住友トラスト・パナソニックファイナンス	500,000,000	499,445,000	
第26回トヨタ自動車（サステナビリティ）	800,000,000	793,024,000	
第27回トヨタ自動車（サステナビリティ）	600,000,000	572,898,000	
第31回トヨタ自動車（サステナビリティ）	200,000,000	193,794,000	

第6回ヤマハ発動機	100,000,000	99,962,000	
第1回明治安田生命2019基金	200,000,000	199,870,000	
第7回アシックス	100,000,000	99,634,000	
第63回三井物産	400,000,000	420,888,000	
第40回住友商事	200,000,000	216,436,000	
第51回住友商事	100,000,000	102,095,000	
第53回住友商事	300,000,000	297,018,000	
第55回住友商事	500,000,000	492,615,000	
第61回住友商事	100,000,000	99,836,000	
第44回丸井グループ	100,000,000	98,769,000	
第101回クレディセゾン	500,000,000	499,665,000	
第3回三菱UFJフィナンシャル・グループ	300,000,000	299,688,000	
第17回三菱UFJフィナンシャル・グループ	500,000,000	486,860,000	
第23回三菱東京UFJ銀行劣後特約付	200,000,000	217,112,000	
第26回三菱東京UFJ銀行劣後特約付	200,000,000	203,070,000	
第29回三菱東京UFJ銀行劣後特約付	200,000,000	204,002,000	
第30回三菱東京UFJ銀行（劣後特約付）	100,000,000	106,364,000	
第88回三菱東京UFJ銀行	100,000,000	104,966,000	
第15回みずほフィナンシャルグループ劣後特約付	100,000,000	97,180,000	
第18回みずほ銀行（劣後特約付）	100,000,000	102,443,000	
第38回芙蓉総合リース（サステナビリティ）	400,000,000	399,728,000	
第40回芙蓉総合リース（サステナビリティ）	100,000,000	99,268,000	
第7回みずほリース	500,000,000	492,315,000	
第9回みずほリース	300,000,000	292,764,000	
第12回みずほリース	200,000,000	195,542,000	
第21回みずほリース	300,000,000	297,474,000	
第22回みずほリース（サステナビリティ）	300,000,000	298,329,000	
第23回みずほリース	200,000,000	198,498,000	
第16回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス	1,200,000,000	1,193,280,000	
第17回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス	300,000,000	295,800,000	
第18回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス	1,500,000,000	1,452,120,000	
第25回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス（グリーン）	300,000,000	296,073,000	
第26回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス（グリーン）	200,000,000	194,706,000	
第28回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス（グリーン）	300,000,000	298,533,000	

第29回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス（グリーン）	300,000,000	299,415,000	
第30回エヌ・ティ・ティ・ファイナンス（グリーン）	200,000,000	200,762,000	
第53回日産フィナンシャルサービス	300,000,000	296,061,000	
第56回日産フィナンシャルサービス	500,000,000	494,870,000	
第57回日産フィナンシャルサービス	400,000,000	392,840,000	
第58回日産フィナンシャルサービス	100,000,000	99,655,000	
第30回東京センチュリー	100,000,000	98,327,000	
第34回東京センチュリー	300,000,000	292,947,000	
第102回トヨタファイナンス	700,000,000	698,138,000	
第103回トヨタファイナンス	300,000,000	298,587,000	
第22回ポケットカード	100,000,000	99,398,000	
第23回ポケットカード	200,000,000	196,748,000	
第24回ポケットカード	300,000,000	298,218,000	
第42回リコーリース	400,000,000	396,272,000	
第209回オリックス	500,000,000	494,965,000	
第220回オリックス	400,000,000	397,948,000	
第222回オリックス	500,000,000	496,205,000	
第34回三井住友ファイナンス&リース	300,000,000	299,250,000	
第2回三菱HCキャピタル	500,000,000	492,780,000	
第40回大和証券グループ本社	500,000,000	498,130,000	
第3回野村ホールディングス	200,000,000	197,258,000	
第24回野村ホールディングス	100,000,000	101,916,000	
第27回野村ホールディングス	100,000,000	101,928,000	
第83回三井不動産（グリーン）	200,000,000	192,992,000	
第142回三菱地所（サステナビリティ）	200,000,000	198,022,000	
第143回三菱地所	100,000,000	97,260,000	
第111回住友不動産（グリーン）	100,000,000	99,210,000	
第76回東京急行電鉄	200,000,000	205,946,000	
第36回京王電鉄	200,000,000	198,088,000	
第53回東日本旅客鉄道	300,000,000	320,055,000	
第71回東日本旅客鉄道	400,000,000	425,992,000	
第100回東日本旅客鉄道	200,000,000	203,478,000	
第163回東日本旅客鉄道	600,000,000	594,732,000	
第73回西日本旅客鉄道	400,000,000	396,452,000	
第42回東海旅客鉄道	100,000,000	107,550,000	

第５３回東海旅客鉄道	100,000,000	105,838,000	
第２８回東京地下鉄	300,000,000	295,011,000	
第５０回阪急阪神ホールディングス	200,000,000	197,200,000	
第５８回阪急阪神ホールディングス	200,000,000	198,514,000	
第６８回名古屋鉄道（サステナビリティ）	200,000,000	196,948,000	
第７１回名古屋鉄道	400,000,000	397,880,000	
第１４回日本通運	200,000,000	197,830,000	
第１回横浜高速鉄道	300,000,000	299,823,000	
第２０回三菱倉庫	100,000,000	98,879,000	
第３１回ＫＤＤＩ（サステナビリティ）	200,000,000	198,136,000	
第９回ソフトバンク	600,000,000	586,734,000	
第１３回ソフトバンク	500,000,000	463,830,000	
第１６回ソフトバンク	500,000,000	461,005,000	
第２１回ソフトバンク	700,000,000	689,521,000	
第２２回ソフトバンク	300,000,000	292,098,000	
第５４８回東京電力	100,000,000	102,371,000	
第５６７回東京電力	100,000,000	100,115,000	
第５６６回中部電力	300,000,000	296,667,000	
第５０８回関西電力	200,000,000	198,794,000	
第５１０回関西電力	500,000,000	496,905,000	
第５１１回関西電力	100,000,000	99,037,000	
第５１８回関西電力	200,000,000	197,302,000	
第５２４回関西電力	200,000,000	197,228,000	
第４００回中国電力	200,000,000	197,794,000	
第４０９回中国電力	200,000,000	196,626,000	
第４４８回中国電力	200,000,000	194,928,000	
第３２２回北陸電力	100,000,000	99,162,000	
第４９２回東北電力	300,000,000	297,927,000	
第４９４回東北電力	200,000,000	198,602,000	
第５２７回東北電力	400,000,000	381,240,000	
第５５２回東北電力	400,000,000	400,696,000	
第４４９回九州電力	300,000,000	298,059,000	
第４５１回九州電力	300,000,000	298,140,000	
第４６８回九州電力	100,000,000	98,496,000	
第４７１回九州電力	300,000,000	295,011,000	
第４８４回九州電力	400,000,000	388,456,000	

第503回九州電力	600,000,000	594,888,000	
第524回九州電力	300,000,000	296,430,000	
第49回電源開発	500,000,000	495,985,000	
第50回電源開発	200,000,000	198,402,000	
第57回電源開発	100,000,000	98,285,000	
第59回電源開発	300,000,000	295,152,000	
第64回電源開発	600,000,000	586,956,000	
第67回電源開発	200,000,000	193,238,000	
第86回電源開発	100,000,000	97,491,000	
第87回電源開発（グリーン）	200,000,000	196,642,000	
第89回電源開発（グリーン）	200,000,000	197,730,000	
第6回東京電力パワーグリッド	100,000,000	99,944,000	
第13回東京電力パワーグリッド	300,000,000	297,894,000	
第15回東京電力パワーグリッド	100,000,000	98,100,000	
第25回東京電力パワーグリッド	100,000,000	99,764,000	
第28回東京電力パワーグリッド	400,000,000	398,220,000	
第31回東京電力パワーグリッド	300,000,000	297,828,000	
第33回東京電力パワーグリッド	700,000,000	697,788,000	
第35回東京電力パワーグリッド	100,000,000	100,072,000	
第39回東京電力パワーグリッド	400,000,000	397,052,000	
第47回東京電力パワーグリッド	200,000,000	190,884,000	
第49回東京電力パワーグリッド	400,000,000	397,400,000	
第16回JERA	200,000,000	198,584,000	
第17回JERA	400,000,000	396,564,000	
第21回JERA	200,000,000	198,240,000	
第22回JERA	1,000,000,000	994,930,000	
第23回JERA	100,000,000	98,298,000	
第25回JERA	400,000,000	399,264,000	
第3回東京電力リニューアブルパワー（グリーン）	400,000,000	399,380,000	
第51回大阪ガス	100,000,000	97,149,000	
第13回広島ガス	200,000,000	196,124,000	
第7回ファーストリテイリング	100,000,000	98,808,000	
社債券 合計	56,500,000,000	56,004,023,000	
合計	947,732,212,000	916,412,566,608	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

(デリバティブ取引に関する注記)に記載しております。

【中間財務諸表】

- 1 当ファンドの中間財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和 38 年大蔵省令第 59 号)ならびに同規則第 284 条、第 307 条の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成 12 年総理府令第 133 号)に基づいて作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2 当ファンドは、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づき、当中間計算期間(2024 年 4 月 26 日から 2024 年 10 月 25 日まで)の中間財務諸表について、PwC Japan 有限責任監査法人により中間監査を受けております。

三菱UF J アセットマネジメント株式会社

取 締 役 会 御 中

PwC Japan 有限責任監査法人

東京事務所
指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている eMAXIS Slim 国内債券インデックスの 2024 年 4 月 26 日から 2024 年 10 月 25 日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、eMAXIS Slim 国内債券インデックスの 2024 年 10 月 25 日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2024 年 4 月 26 日から 2024 年 10 月 25 日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UF J アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク

評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRL データは中間監査の対象には含まれていません。

【eMAXIS Slim 国内債券インデックス】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第 7 期 [2024 年 4 月 25 日現在]	第 8 期中間計算期間末 [2024 年 10 月 25 日現在]
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	54,870,836	70,315,474
親投資信託受益証券	22,835,052,699	25,632,563,086
未収入金	2,317,356	2,845,243
未収利息	96	413
流動資産合計	22,892,240,987	25,705,724,216
資産合計	22,892,240,987	25,705,724,216
負債の部		
流動負債		
未払解約金	40,883,432	55,164,025
未払受託者報酬	2,417,125	2,663,812
未払委託者報酬	12,085,553	13,318,997
その他未払費用	314,167	346,237
流動負債合計	55,700,277	71,493,071
負債合計	55,700,277	71,493,071
純資産の部		
元本等		
元本	24,090,147,722	27,160,863,426
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金 (△)	△1,253,607,012	△1,526,632,281
(分配準備積立金)	163,897,249	75,020,767
元本等合計	22,836,540,710	25,634,231,145
純資産合計	22,836,540,710	25,634,231,145
負債純資産合計	22,892,240,987	25,705,724,216

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第 7 期中間計算期間 自 2023 年 4 月 26 日 至 2023 年 10 月 25 日	第 8 期中間計算期間 自 2024 年 4 月 26 日 至 2024 年 10 月 25 日
営業収益		
受取利息	612	118,734
有価証券売買等損益	△610,265,579	△63,077,212
営業収益合計	△610,264,967	△62,958,478
営業費用		
支払利息	38,990	-
受託者報酬	2,185,661	2,663,812
委託者報酬	10,928,238	13,318,997
その他費用	284,068	346,237

営業費用合計	13,436,957	16,329,046
営業利益又は営業損失（△）	△623,701,924	△79,287,524
経常利益又は経常損失（△）	△623,701,924	△79,287,524
中間純利益又は中間純損失（△）	△623,701,924	△79,287,524
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（△）	△61,152,715	△34,690,312
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△432,822,558	△1,253,607,012
剰余金増加額又は欠損金減少額	280,487,204	1,090,721,556
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	280,487,204	1,090,721,556
剰余金減少額又は欠損金増加額	424,014,021	1,319,149,613
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	424,014,021	1,319,149,613
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（△）	△1,138,898,584	△1,526,632,281

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
--------------------	---

（中間貸借対照表に関する注記）

	第 7 期 [2024 年 4 月 25 日現在]	第 8 期中間計算期間末 [2024 年 10 月 25 日現在]
1. 期首元本額	19,102,956,799 円	24,090,147,722 円
期中追加設定元本額	33,660,968,841 円	23,189,162,809 円
期中一部解約元本額	28,673,777,918 円	20,118,447,105 円
2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回っており、その差額であります。	1,253,607,012 円	1,526,632,281 円
3. 受益権の総数	24,090,147,722 口	27,160,863,426 口

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

第 7 期中間計算期間 自 2023 年 4 月 26 日 至 2023 年 10 月 25 日	第 8 期中間計算期間 自 2024 年 4 月 26 日 至 2024 年 10 月 25 日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	第 7 期 [2024 年 4 月 25 日現在]	第 8 期中間計算期間末 [2024 年 10 月 25 日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 （２）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。	（１）有価証券 同左 （２）デリバティブ取引 同左

	(3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(3) 上記以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)
該当事項はありません。

(デリバティブ取引に関する注記)
取引の時価等に関する事項
該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第7期 [2024年4月25日現在]	第8期中間計算期間末 [2024年10月25日現在]
1口当たり純資産額	0.9480円	0.9438円
(1万口当たり純資産額)	(9,480円)	(9,438円)

(参考)
当ファンドの主要投資対象の状況は以下の通りです。
なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

日本債券インデックスマザーファンド

貸借対照表

(単位：円)

[2024年10月25日現在]

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	5,181,704,664
国債証券	816,445,483,880
地方債証券	52,186,023,900
特殊債券	40,061,655,245
社債券	62,052,216,000
未収入金	1,186,681,000
未収利息	1,447,514,075
前払金	13,110,000
前払費用	83,649,243
差入委託証拠金	40,358,020
流動資産合計	978,698,396,027
資産合計	978,698,396,027

負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	10,831,505
未払金	1,200,000,000
未払解約金	299,410,698
流動負債合計	1,510,242,203
負債合計	1,510,242,203
純資産の部	
元本等	
元本	778,676,962,752
剰余金	
剰余金又は欠損金（△）	198,511,191,072
元本等合計	977,188,153,824
純資産合計	977,188,153,824
負債純資産合計	978,698,396,027

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引は金融商品取引所等における清算値段で評価しております。

（貸借対照表に関する注記）

	[2024年10月25日現在]
1. 期首	2024年4月26日
期首元本額	733,010,922,997円
期中追加設定元本額	113,693,671,635円
期中一部解約元本額	68,027,631,880円
元本の内訳※	
三菱UFJ ライフセレクトファンド（安定型）	8,051,360,566円
三菱UFJ ライフセレクトファンド（安定成長型）	12,619,791,704円
三菱UFJ ライフセレクトファンド（成長型）	3,522,771,691円
三菱UFJ プライムバランス（安定型）（確定拠出年金）	58,915,246,749円
三菱UFJ プライムバランス（安定成長型）（確定拠出年金）	111,112,303,151円
三菱UFJ プライムバランス（成長型）（確定拠出年金）	37,603,461,418円
三菱UFJ 6資産バランスファンド（2ヵ月分配型）	211,901,926円
三菱UFJ 6資産バランスファンド（成長型）	203,342,663円
三菱UFJ 国内債券インデックスファンド	1,622,872,991円
eMAXIS 国内債券インデックス	6,336,926,666円
eMAXIS バランス（8資産均等型）	4,948,934,876円
eMAXIS バランス（波乗り型）	178,874,911円
三菱UFJ プライムバランス（8資産）（確定拠出年金）	20,143,329,136円
三菱UFJ 国内債券インデックスファンド（確定拠出年金）	43,857,496,818円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金）	12,592,869,788円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金）	6,688,100,749円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）	3,011,272,942円
eMAXIS Slim 国内債券インデックス	20,425,980,625円

国内債券セレクション（ラップ向け）	5,834,369,513 円
eMAXIS Slim バランス（8資産均等型）	28,058,678,446 円
つみたて8資産均等バランス	14,276,358,906 円
つみたて4資産均等バランス	5,833,068,523 円
eMAXIS マイマネージャー 1970s	22,718,222 円
eMAXIS マイマネージャー 1980s	17,058,268 円
eMAXIS マイマネージャー 1990s	558,013 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）	7,497,768,727 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）	3,623,551,945 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）	1,485,973,766 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式15）	8,093,041,850 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式40）	8,190,590,317 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式65）	5,478,530,333 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金）	1,138,085,309 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式25）	1,491,430,288 円
国内債券インデックスファンド（ラップ向け）	1,275,924,940 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065（確定拠出年金）	546,977,726 円
ラップ向けインデックスf 国内債券	6,911,816,044 円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド（保守型）	2,406,240,673 円
三菱UFJ DC年金バランス（株式80）	14,323,293 円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2070（確定拠出年金）	15,403,971 円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド・アネックス（為替リスク軽減型）コンサバティブコース	17,963,830 円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド・アネックス（為替リスク軽減型）スタンダードコース	189,694 円
eMAXIS/PayPay証券 全世界バランス	500,390 円
三菱UFJ アドバンスト・バランス（安定型）	52,468,638 円
三菱UFJ アドバンスト・バランス（安定成長型）	87,059,248 円
eMAXIS 債券バランス（2資産均等型）	81,551,514 円
eMAXIS バランス（4資産均等型）	2,335,803,063 円
eMAXIS 最適化バランス（マイゴールキーパー）	2,337,796,897 円
eMAXIS 最適化バランス（マイディフェンダー）	1,362,243,008 円
eMAXIS 最適化バランス（マイミッドフィルダー）	2,597,628,366 円
eMAXIS 最適化バランス（マイフォワード）	159,691,711 円
eMAXIS 最適化バランス（マイストライカー）	69,112,581 円
三菱UFJ 日本債券ファンドVA（適格機関投資家限定）	5,075,790,450 円
三菱UFJ バランスファンド45VA（適格機関投資家限定）	27,435,327 円
三菱UFJ バランスファンド40VA（適格機関投資家限定）	8,779,747,347 円
三菱UFJ バランスファンドVA 20型（適格機関投資家限定）	575,666,246 円
三菱UFJ バランスファンドVA 40型（適格機関投資家限定）	4,449,623,680 円
MUAM 日本債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	185,355,808,198 円
三菱UFJ バランスファンドVA 50型（適格機関投資家限定）	458,302,299 円
三菱UFJ バランスファンド55VA（適格機関投資家限定）	1,617,997 円
三菱UFJ バランスファンドVA 30型（適格機関投資家限定）	317,427 円
三菱UFJ バランスファンド50VA（適格機関投資家限定）	4,280,838,546 円
三菱UFJ バランスファンド20VA（適格機関投資家限定）	2,450,862,249 円

MUKAM スマート・クオリティ・セレクション（適格機関投資家転売制限付）	2,378,106,246 円
世界8資産バランスマスターファンドVL（適格機関投資家限定）	691,936,566 円
MUKAM 日本債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）	41,782,112,848 円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション2（適格機関投資家限定）	2,000,159,623 円
マルチアセット運用戦略ファンド（適格機関投資家限定）	2,185,036 円
日本債券インデックスファンドS	6,756,514,451 円
グローバルバランスマスターオープンV（適格機関投資家限定）	27,275,711 円
国内債券インデックスオープンV（適格機関投資家限定）	14,993,519 円
MUAM グローバルバランス（退職給付信託向け）（適格機関投資家限定）	24,503,259,248 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-07（適格機関投資家限定）	554,334,205 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-09（適格機関投資家限定）	546,840,063 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-11（適格機関投資家限定）	547,010,780 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-03（適格機関投資家限定）	546,757,835 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-05（適格機関投資家限定）	548,694,334 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-11（適格機関投資家限定）	545,804,051 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-01（適格機関投資家限定）	559,816,343 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-03（適格機関投資家限定）	587,761,901 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-05（適格機関投資家限定）	606,830,601 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-07（適格機関投資家限定）	622,785,795 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-09（適格機関投資家限定）	627,454,324 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-11（適格機関投資家限定）	628,202,232 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2023-01（適格機関投資家限定）	628,183,105 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2023-03（適格機関投資家限定）	628,165,479 円
MUKAM アセットアロケーションファンド2023-05（適格機関投資家限定）	628,207,051 円
インデックス・ライフ・バランスファンド（安定型）VA	19,242,360 円
インデックス・ライフ・バランスファンド（安定成長型）VA	22,893,632 円
インデックス・ライフ・バランスファンド（成長型）VA	3,500,461 円
インデックス・ライフ・バランスファンド（積極型）VA	9,945,353 円
三菱UFJ バランスVA30D（適格機関投資家限定）	18,602,953 円
三菱UFJ バランスVA60D（適格機関投資家限定）	48,298,669 円
三菱UFJ バランスVA30G（適格機関投資家限定）	9,567,258 円
三菱UFJ バランスVA60G（適格機関投資家限定）	31,544,485 円
三菱UFJ <DC>日本債券インデックスファンド	4,360,203,696 円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（安定型）	2,272,252,675 円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（安定成長型）	4,822,175,562 円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（成長型）	3,041,243,666 円

三菱UF J <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (積極型)	2, 236, 773, 486 円
合計	778, 676, 962, 752 円
2. 受益権の総数	778, 676, 962, 752 口

※当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)
金融商品の時価等に関する事項

区分	[2024 年 10 月 25 日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、(デリバティブ取引に関する注記)に記載しております。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コールローン等)は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)
該当事項はありません。

(デリバティブ取引に関する注記)
取引の時価等に関する事項

債券関連

[2024 年 10 月 25 日現在]

区分	種類	契約額等 (円)		時価 (円)	評価損益 (円)
			うち 1 年超		
市場取引	債券先物取引 買建	3, 324, 190, 000	—	3, 313, 380, 000	△10, 810, 000
合計		3, 324, 190, 000	—	3, 313, 380, 000	△10, 810, 000

(注) 時価の算定方法

- 1 先物取引の時価については、以下のように評価しております。
原則として、直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または終値で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、最も近い終値や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。
- 2 先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
- 3 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

※上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはありません。

(1 口当たり情報)

	[2024 年 10 月 25 日現在]
1 口当たり純資産額	1. 2549 円
(1 万口当たり純資産額)	(12, 549 円)

2 【ファンドの現況】

【eMAXIS Slim 国内債券インデックス】

【純資産額計算書】

2024年10月31日現在

(単位：円)

I 資産総額	25,661,510,216
II 負債総額	61,190,993
III 純資産総額 (I - II)	25,600,319,223
IV 発行済口数	27,119,048,612口
V 1口当たり純資産価額 (III/IV)	0.9440
(10,000口当たり)	(9,440)

(参考)

日本債券インデックスマザーファンド

純資産額計算書

2024年10月31日現在

(単位：円)

I 資産総額	993,651,018,199
II 負債総額	13,445,369,207
III 純資産総額 (I - II)	980,205,648,992
IV 発行済口数	780,933,616,426口
V 1口当たり純資産価額 (III/IV)	1.2552
(10,000口当たり)	(12,552)

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2) 受益者等に対する特典

該当事項はありません。

(3) 譲渡制限の内容

該当事項はありません。

(4) 受益権の譲渡

- ①受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ②上記①の申請のある場合には、上記①の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記①の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- ③上記①の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(5) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(6) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、解約請求の受付け、解約代金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額等

2024年10月末現在、資本金は2,000百万円です。なお、発行可能株式総数は400,000株であり、211,581株を発行済です。最近5年間ににおける資本金の額の増減はありません。

(2) 委託会社の機構

・会社の意思決定機構

業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務の執行を監督する機関として、取締役会を設置します。取締役の選任は、総株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席する株主総会にてその議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。また、取締役会で決定した基本方針に基づき、経営管理全般に関する執行方針その他重要な事項を協議・決定する機関として、経営会議を設置します。

・投資運用の意思決定機構

①投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

②運用戦略の決定

運用戦略・管理委員会において、①で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

③運用計画の決定

②で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

④ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

⑤運用部門による自律的な運用管理

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、運用部門内の管理担当部署は逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。また、運用戦略・管理委員会を通じて運用状況のモニタリングを行い、運用部門内での自律的牽制により運用改善を図ります。

⑥管理担当部署による運用管理

運用部から独立した管理担当部署は、(a) 運用に関するパフォーマンス測定・分析のほか、(b) リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、(a) についてはファンド管理委員会を経て運用担当部・商品開発担当部にフィードバックされ、(b) についてはリスク管理委員会を通じて運用担当部にフィードバックされ、必要に応じて部署間連携の上で是正・改善の検討が行われます。

⑦ファンドに関係する法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に関係する法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、商品企画委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

⑧運用・管理に関する監督

内部監査担当部署は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）等を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務を行っています。

2024 年 10 月 31 日現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除きます。）

商品分類	本 数 (本)	純資産総額 (百万円)
追加型株式投資信託	817	38,739,443
追加型公社債投資信託	16	1,502,634
単位型株式投資信託	87	388,919
単位型公社債投資信託	46	113,971
合 計	966	40,744,968

なお、純資産総額の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して記載しておりますので、表中の個々の数字の合計と合計欄の数字とは一致しないことがあります。

3【委託会社等の経理状況】

(1) 財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

委託会社である三菱UFJアセットマネジメント株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和 38 年大蔵省令第 59 号）」（以下「財務諸表等規則」という。）第 2 条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成 19 年内閣府令第 52 号）」に基づき作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、財務諸表等規則第 282 条及び第 306 条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成 19 年内閣府令第 52 号）」に基づき作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表に掲載している金額については、従来、千円未満の端数を切り捨てて表示しておりましたが、当中間会計期間より百万円未満の端数を切り捨てて表示することに変更しました。

(2) 監査証明について

当社は、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づき、第 39 期事業年度（自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

また、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づき、第 40 期事業年度に係る中間会計期間（自 2024 年 4 月 1 日 至 2024 年 9 月 30 日）の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより中間監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

2024 年 6 月 7 日

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 信之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田嶋 大士

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJアセットマネジメント株式会社の 2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの第 39 期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱UFJアセットマネジメント株式会社の 2024 年 3 月 31 日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRL データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2024 年 12 月 3 日

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

取締役会 御 中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	鶴	見	将	史
--------------------	-------	---	---	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田	嶋	大	士
--------------------	-------	---	---	---	---

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJアセットマネジメント株式会社の 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの第 40 期事業年度の中間会計期間（2024 年 4 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJアセットマネジメント株式会社の 2024 年 9 月 30 日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2024 年 4 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成す

ることが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRL データは中間監査の対象には含まれていません。

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

		第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)		第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金	※2	51,733,041	※2	58,206,340
有価証券		1,579,691		15,283
前払費用		770,747		679,199
未収入金		81,854		138,388
未収委託者報酬		16,753,855		21,064,747
未収収益	※2	688,142	※2	1,485,701
金銭の信託		10,400,000		10,500,500
その他		745,576		371,400
流動資産合計		82,752,908		92,461,561
固定資産				
有形固定資産				
建物	※1	181,551	※1	2,936,036
器具備品	※1	730,357	※1	1,531,857
土地		628,433		628,433
建設仮勘定		1,111,177		45,140
有形固定資産合計		2,651,520		5,141,467
無形固定資産				
電話加入権		15,822		15,822
ソフトウェア		4,183,644		5,008,987
ソフトウェア仮勘定		1,907,739		1,587,548
無形固定資産合計		6,107,206		6,612,357
投資その他の資産				
投資有価証券		12,022,365		13,788,071
関係会社株式		159,536		159,536
投資不動産	※1	807,066	※1	1,788,120
長期差入保証金		689,492		689,867
前払年金費用		118,832		47,573
繰延税金資産		1,675,132		1,088,836
その他		45,230		45,230
貸倒引当金		△23,600		△23,600
投資その他の資産合計		15,494,056		17,583,636
固定資産合計		24,252,782		29,337,461
資産合計		107,005,691		121,799,022

(単位：千円)

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
(負債の部)		
流動負債		
預り金	507,559	807,451
未払金		
未払収益分配金	114,094	105,550
未払償還金	7,418	43,553
未払手数料	※2 6,139,595	※2 7,523,485
その他未払金	※2 955,697	※2 885,002
未払費用	※2 5,778,896	※2 8,611,140
未払消費税等	439,657	623,219
未払法人税等	2,375,281	2,235,007
賞与引当金	849,840	1,182,242
役員賞与引当金	154,872	175,992
その他	5,517	12,303
流動負債合計	17,328,431	22,204,949
固定負債		
退職給付引当金	1,333,882	1,608,101
役員退職慰労引当金	75,667	30,105
時効後支払損引当金	254,296	250,350
資産除去債務	-	1,428,586
その他	-	29,109
固定負債合計	1,663,846	3,346,253
負債合計	18,992,277	25,551,202
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	2,000,131	2,000,131
資本剰余金		
資本準備金	3,572,096	3,572,096
その他資本剰余金	41,160,616	41,160,616
資本剰余金合計	44,732,712	44,732,712
利益剰余金		
利益準備金	342,589	342,589
その他利益剰余金		
別途積立金	6,998,000	6,998,000
繰越利益剰余金	33,267,700	40,236,787
利益剰余金合計	40,608,289	47,577,377
株主資本合計	87,341,133	94,310,221

(単位：千円)

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	672, 279	1, 937, 598
評価・換算差額等合計	672, 279	1, 937, 598
純資産合計	88, 013, 413	96, 247, 820
負債純資産合計	107, 005, 691	121, 799, 022

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
営業収益		
委託者報酬	84,121,445	98,635,342
投資顧問料	2,750,601	3,117,320
その他営業収益	10,412	148,442
営業収益合計	86,882,459	101,901,104
営業費用		
支払手数料	※4 31,461,274	※4 34,494,219
広告宣伝費	798,894	593,586
公告費	375	1,017
調査費		
調査費	2,849,042	3,537,103
委託調査費	19,236,505	27,296,058
事務委託費	1,751,807	1,861,577
営業雑経費		
通信費	113,480	137,737
印刷費	367,379	390,143
協会費	58,128	68,869
諸会費	18,447	20,108
事務機器関連費	2,238,382	2,531,009
その他営業雑経費	-	139,012
営業費用合計	58,893,717	71,070,444
一般管理費		
給料		
役員報酬	416,461	400,592
給料・手当	6,565,766	7,202,711
賞与引当金繰入	849,840	1,182,242
役員賞与引当金繰入	154,872	175,992
福利厚生費	1,279,885	1,424,215
交際費	8,942	10,054
旅費交通費	75,274	108,782
租税公課	403,955	397,138
不動産賃借料	719,707	728,550
退職給付費用	388,176	381,449
固定資産減価償却費	2,418,341	2,469,755
諸経費	444,313	490,104
一般管理費合計	13,725,534	14,971,590
営業利益	14,263,207	15,859,070

(単位：千円)

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
営業外収益		
受取配当金	47,353	54,618
受取利息	※4 10,279	※4 12,836
投資有価証券償還益	609,102	204,527
収益分配金等時効完成分	94,351	17,722
受取賃貸料	※4 65,808	※4 162,111
その他	36,894	44,734
営業外収益合計	863,788	496,550
営業外費用		
投資有価証券償還損	32,995	234,700
時効後支払損引当金繰入	31,951	-
事務過誤費	2,680	10,822
賃貸関連費用	14,262	108,773
その他	32,394	25,903
営業外費用合計	114,284	380,199
経常利益	15,012,711	15,975,421
特別利益		
投資有価証券売却益	387,113	464,927
固定資産売却益	-	※1 16,229
資産除去債務履行差額	-	87,050
特別利益合計	387,113	568,207
特別損失		
投資有価証券売却損	15,828	57,011
投資有価証券評価損	104,554	31,651
固定資産除却損	※3 32,791	※3 20,246
固定資産売却損	-	※2 65,427
減損損失	※5 315,350	-
企業結合関連費用	-	※6 1,187,136
特別損失合計	468,524	1,361,473
税引前当期純利益	14,931,300	15,182,154
法人税、住民税及び事業税	※4 4,860,444	※4 4,542,085
法人税等調整額	△271,471	102,468
法人税等合計	4,588,973	4,644,553
当期純利益	10,342,327	10,537,601

(3) 【株主資本等変動計算書】

第38期（自2022年4月1日至2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712

	利益剰余金				株主資本合計
	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
別途 積立金		繰越利益 剰余金			
当期首残高	342, 589	6, 998, 000	29, 000, 498	36, 341, 088	83, 073, 932
当期変動額					
剰余金の配当			△6, 075, 125	△6, 075, 125	△6, 075, 125
当期純利益			10, 342, 327	10, 342, 327	10, 342, 327
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	4, 267, 201	4, 267, 201	4, 267, 201
当期末残高	342, 589	6, 998, 000	33, 267, 700	40, 608, 289	87, 341, 133

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,626,775	1,626,775	84,700,707
当期変動額			
剰余金の配当			△6,075,125
当期純利益			10,342,327
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△954,495	△954,495	△954,495
当期変動額合計	△954,495	△954,495	3,312,705
当期末残高	672,279	672,279	88,013,413

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計
当期首残高	2, 000, 131	3, 572, 096	41, 160, 616	44, 732, 712
当期変動額				
企業結合による増加				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	2, 000, 131	3, 572, 096	41, 160, 616	44, 732, 712

	利益剰余金				株主資本合計
	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
別途 積立金		繰越利益 剰余金			
当期首残高	342, 589	6, 998, 000	33, 267, 700	40, 608, 289	87, 341, 133
当期変動額					
企業結合による増加			1, 602, 526	1, 602, 526	1, 602, 526
剰余金の配当			△5, 171, 039	△5, 171, 039	△5, 171, 039
当期純利益			10, 537, 601	10, 537, 601	10, 537, 601
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	6, 969, 087	6, 969, 087	6, 969, 087
当期末残高	342, 589	6, 998, 000	40, 236, 787	47, 577, 377	94, 310, 221

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	672, 279	672, 279	88, 013, 413
当期変動額			
企業結合による増加			1, 602, 526
剰余金の配当			△5, 171, 039
当期純利益			10, 537, 601
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	1, 265, 319	1, 265, 319	1, 265, 319
当期変動額合計	1, 265, 319	1, 265, 319	8, 234, 406
当期末残高	1, 937, 598	1, 937, 598	96, 247, 820

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	2年～20年
投資不動産	3年～50年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として10年)による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(6) 時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

6. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) 委託者報酬

投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。委託者報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を投資信託によって主に年 2 回受領しております。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2) 投資顧問料

顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。投資顧問料は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を主に年 4 回受領しております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。

7. その他財務諸表作成のための基礎となる事項

グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

(貸借対照表関係)

※1. 有形固定資産及び投資不動産の減価償却累計額

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
建物	1,006,606 千円	498,805 千円
器具備品	1,985,072 千円	1,643,689 千円
投資不動産	163,978 千円	211,090 千円

※2. 関係会社に対する主な資産・負債

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
預金	40,165,058 千円	39,776,992 千円
未収収益	15,046 千円	12,312 千円
未払手数料	790,279 千円	886,173 千円
その他未払金	77,007 千円	105,407 千円
未払費用	277,358 千円	599,493 千円

(損益計算書関係)

※1. 固定資産売却益の内訳

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
器具備品	-	16,229 千円
計	-	16,229 千円

※2. 固定資産売却損の内訳

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
器具備品	-	65,427 千円
計	-	65,427 千円

※3. 固定資産除却損の内訳

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
建物	1,047 千円	15,825 千円
器具備品	29,762 千円	3,986 千円
ソフトウェア	1,981 千円	434 千円
計	32,791 千円	20,246 千円

※4. 関係会社に対する主な取引

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
支払手数料	4,893,312 千円	5,006,309 千円
受取利息	10,236 千円	12,747 千円
受取賃貸料	68,168 千円	152,876 千円
法人税、住民税及び事業税	3,947,200 千円	132,303 千円

※5. 減損損失

第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

当社は、以下のとおり減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
東京都千代田区 (本社)	ホームページ	ソフトウェア	315,350 千円

当社は資産運用業の単一セグメントであるため、事業用資産に区別はなく、全社を 1 つのグルーピングとしております。

ホームページのリニューアルに伴い、現行のホームページについて将来の利用終了が見込まれるため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、回収可能価額として使用価値を用いておりますが、割引率については使用見込期間が短いため考慮していません。

第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

当事業年度については、該当事項はありません。

※6. 企業結合関連費用

第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

前事業年度については、該当事項はありません。

第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

企業結合に伴うものであり、主にシステム統合費用などであります。

(株主資本等変動計算書関係)

第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度増加 株式数 (株)	当事業年度減少 株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2022 年 6 月 28 日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- ① 配当金の総額 6,075,125 千円
- ② 1 株当たり配当額 28,713 円
- ③ 基準日 2022 年 3 月 31 日
- ④ 効力発生日 2022 年 6 月 29 日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2023 年 6 月 28 日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- ① 配当金の総額 5,171,039 千円
- ② 配当の原資 利益剰余金
- ③ 1 株当たり配当額 24,440 円
- ④ 基準日 2023 年 3 月 31 日
- ⑤ 効力発生日 2023 年 6 月 29 日

第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度増加 株式数 (株)	当事業年度減少 株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2023 年 6 月 28 日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- ① 配当金の総額 5,171,039 千円
- ② 1 株当たり配当額 24,440 円
- ③ 基準日 2023 年 3 月 31 日
- ④ 効力発生日 2023 年 6 月 29 日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2024 年 6 月 26 日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

- ① 配当金の総額 45,747,620 千円
- ② 配当の原資 利益剰余金
- ③ 1 株当たり配当額 216,218 円
- ④ 基準日 2024 年 3 月 31 日
- ⑤ 効力発生日 2024 年 6 月 27 日

(リース取引関係)

〈借主側〉

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
1 年内	962,809 千円	681,212 千円
1 年超	1,532,728 千円	851,515 千円
合計	2,495,537 千円	1,532,728 千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については銀行預金、金銭の信託（合同運用指定金銭信託）で運用し、金融機関からの資金調達は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は主として投資信託であり、価格変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

内部管理規程に従って月次でリスク資本を認識し、経営会議に報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（(注2) 参照）。

第 38 期(2023 年 3 月 31 日現在)

	貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 有価証券	1,579,691	1,579,691	—
(2) 金銭の信託	10,400,000	10,400,000	—
(3) 投資有価証券	12,022,365	12,022,365	—
資産計	24,002,056	24,002,056	—

(注 1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注 2) 市場価格のない株式等

関連会社株式（前事業年度の貸借対照表計上額 159,536 千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

(注 3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(注 4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第 38 期(2023 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円)

	1 年以内	1 年超 5 年以内	5 年超 10 年以内	10 年超
現金及び預金	51,733,041	—	—	—
金銭の信託	10,400,000	—	—	—
未収委託者報酬	16,753,855	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	1,579,691	4,859,714	1,433,213	—
合計	80,466,587	4,859,714	1,433,213	—

第 39 期(2024 年 3 月 31 日現在)

	貸借対照表 計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 有価証券	15,283	15,283	—
(2) 金銭の信託	10,500,500	10,500,500	—
(3) 投資有価証券	13,788,071	13,788,071	—
資産計	24,303,855	24,303,855	—

(注 1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注 2) 市場価格のない株式等

関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額 159,536 千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

(注 3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(注 4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第 39 期(2024 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円)

	1 年以内	1 年超 5 年以内	5 年超 10 年以内	10 年超
現金及び預金	58,206,340	—	—	—
金銭の信託	10,500,500	—	—	—
未収委託者報酬	21,064,747	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	15,283	5,351,373	347,505	11,696
合計	89,786,871	5,351,373	347,505	11,696

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の 3 つのレベルに分類しております。

- レベル 1 の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル 2 の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル 1 のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル 3 の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債
第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)

区分	時価 (千円)			
	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合計
有価証券	—	1,579,691	—	1,579,691
金銭の信託	—	10,400,000	—	10,400,000
投資有価証券	1,794,704	10,227,661	—	12,022,365
資産計	1,794,704	22,207,352	—	24,002,056

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF (上場投資信託) は相場価格を用いて評価しております。ETF は活発な市場で取引されているため、レベル 1 の時価に分類しております。

ETF (上場投資信託) 以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル 2 の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル 2 の時価に分類しております。

第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)

区分	時価 (千円)			
	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合計
有価証券	—	15,283	—	15,283
金銭の信託	—	10,500,500	—	10,500,500
投資有価証券	2,014,968	11,773,103	—	13,788,071
資産計	2,014,968	22,288,887	—	24,303,855

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF (上場投資信託) は相場価格を用いて評価しております。ETF は活発な市場で取引されているため、レベル 1 の時価に分類しております。

ETF (上場投資信託) 以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル 2 の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル 2 の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 子会社株式及び関連会社株式

第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在) 及び第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)

関連会社株式 (貸借対照表計上額は 159,536 千円) は、市場価格がないため、記載しておりません。

2. その他有価証券

第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	8,983,713	7,558,314	1,425,399
	小計	8,983,713	7,558,314	1,425,399
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	15,018,343	15,474,760	△456,417
	小計	15,018,343	15,474,760	△456,417
合計		24,002,056	23,033,074	968,982

(注)「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」(貸借対照表計上額は 10,400,000 千円、取得原価は 10,400,000 千円)を含めております。

第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	17,364,277	14,269,984	3,094,293
	小計	17,364,277	14,269,984	3,094,293
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	6,939,577	7,241,136	△301,559
	小計	6,939,577	7,241,136	△301,559
合計		24,303,855	21,511,121	2,792,733

(注)「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」(貸借対照表計上額は 10,500,500 千円、取得原価は 10,500,000 千円)を含めております。

3. 売却したその他有価証券

第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	17,240	—	14,120
債券	—	—	—
その他	1,551,405	387,113	1,708
合計	1,568,645	387,113	15,828

第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	—	—	—
債券	—	—	—
その他	3,750,272	464,927	57,011
合計	3,750,272	464,927	57,011

4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について 104,554 千円（その他有価証券のその他 104,554 千円）減損処理を行っております。

当事業年度において、有価証券について 31,651 千円（その他有価証券のその他 31,651 千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ 50%以上下落した場合、及び 30%以上 50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。また確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

（1）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
退職給付債務の期首残高	3,723,521 千円	3,582,778 千円
勤務費用	196,190	182,947
利息費用	25,925	39,626
数理計算上の差異の 発生額	△186,130	△79,379
退職給付の支払額	△176,727	△300,286
過去勤務費用の発生額	—	—
企業結合による影響額	—	226,499
退職給付債務の期末残高	3,582,778	3,652,185

（2）年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
年金資産の期首残高	2,583,927 千円	2,425,752 千円
期待運用収益	46,453	43,626
数理計算上の差異の 発生額	△103,934	227,699
事業主からの拠出額	—	—
退職給付の支払額	△100,694	△204,536
年金資産の期末残高	2,425,752	2,492,542

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
積立型制度の 退職給付債務	2,468,195 千円	2,250,427 千円
年金資産	△2,425,752	△2,492,542
	42,442	△242,114
非積立型制度の退職給付債務	1,114,583	1,401,758
未積立退職給付債務	1,157,025	1,159,643
未認識数理計算上の差異	281,343	558,841
未認識過去勤務費用	△223,319	△157,957
貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	1,215,049	1,560,527
退職給付引当金	1,333,882	1,608,101
前払年金費用	△118,832	△47,573
貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	1,215,049	1,560,527

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)	第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)
勤務費用	196,190 千円	182,947 千円
利息費用	25,925	39,626
期待運用収益	△46,453	△43,626
数理計算上の差異の 費用処理額	△6,532	△29,581
過去勤務費用の費用処理額	65,361	65,361
退職給付制度の統合に係る 調整額	-	34,505
その他	1,600	2,196
確定給付制度に係る 退職給付費用	236,091	251,429

(注)「その他」は受入出向者に係る出向元への退職給付費用負担額及び退職金です。「退職給付制度の統合に係る調整額」は企業結合関連費用の一部として特別損失に計上しております。

(5) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
債券	63.6 %	62.0 %
株式	34.2	35.9
その他	2.2	2.1
合計	100	100

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
割引率	0.066～1.13%	1.39～1.41%
長期期待運用収益率	1.5～1.8%	1.5～1.8%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度 152,084 千円、当事業年度 164,524 千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
繰延税金資産		
減損損失	499,742千円	389,750千円
投資有価証券評価損	47,876	30,021
未払事業税	169,997	126,161
賞与引当金	260,221	362,002
役員賞与引当金	29,828	33,564
役員退職慰労引当金	23,169	9,218
退職給付引当金	408,434	492,400
減価償却超過額	227,100	199,986
差入保証金	52,869	—
資産除去債務	—	16,900
時効後支払損引当金	77,865	76,657
その他	212,315	227,182
繰延税金資産 小計	2,009,420	1,963,847
評価性引当額	—	—
繰延税金資産 合計	2,009,420	1,963,847
繰延税金負債		
前払年金費用	△36,386	△14,567
その他有価証券評価差額金	△296,702	△855,135
その他	△1,199	△5,308
繰延税金負債 合計	△334,288	△875,010
繰延税金資産の純額	1,675,132	1,088,836

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳
第 38 期（2023 年 3 月 31 日現在）及び第 39 期（2024 年 3 月 31 日現在）
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差が法定実効税率の 100 分の 5 以下であるため
注記を省略しております。

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理
当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び
開示に関する取扱い」（実務対応報告第 42 号 2021 年 8 月 12 日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処
理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

（企業結合等関係）

当社は、2023 年 7 月 31 日開催の取締役会において、三菱UFJ不動産投資顧問株式会社(旧商号：MU投
資顧問株式会社)と吸収分割契約を締結することを決議し、同日、吸収分割の効力発生日を 2023 年 10 月 1 日
とする吸収分割契約を締結いたしました。本吸収分割契約に基づき、当社と三菱UFJ不動産投資顧問株
式会社は、2023 年 10 月 1 日付で吸収分割を実施いたしました。

なお、2023 年 10 月 1 日付で当社は「三菱UFJアセットマネジメント株式会社」へ商号変更しました。

1. 取引の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 三菱UFJ不動産投資顧問株式会社
事業の内容 投資顧問業、私募投資信託の設定・運用等

(2) 企業結合日

2023 年 10 月 1 日

(3) 企業結合の法的形式

当社と兄弟会社である三菱UFJ不動産投資顧問株式会社を吸収分割会社、当社を吸収分割承継会社とす
る無対価吸収分割

(4) 結合後企業の名称

分割会社：三菱UFJ不動産投資顧問株式会社
承継会社：三菱UFJアセットマネジメント株式会社

(5) 企業結合を行った主な理由

法人投資家の運用ニーズが拡大しており、両社で取り組みを強化している法人投資家ビジネスにかかる運
用・営業等の関連機能を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に統合することで、リソースやノウハ
ウの集約を通じた運用機能等の強化を図ってまいります。

2. 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準（企業会計基準第 21 号 2019 年 1 月 16 日）」及び「企業結合会計基準及び事
業分離等会計基準に関する適用指針（企業会計基準適用指針第 10 号 2019 年 1 月 16 日）」に基づき、共通支
配下の取引として処理いたしました。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から 15 年と見積り、割引率は 1.1%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	第 38 期 (2023 年 3 月 31 日現在)	第 39 期 (2024 年 3 月 31 日現在)
期首残高	—	—
有形固定資産の取得に伴う増加	—	1,420,750 千円
時の経過による調整額	—	7,835 千円
期末残高	—	1,428,586 千円

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「(重要な会計方針) の 6. 収益および費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日) 及び第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日) 及び第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の 90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

第 38 期 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

種類	会社等の 名称	所在地	資本金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注 5)	科目	期末残高 (注 5)
親会社	㈱三菱 UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税等	連結納税等に 伴う支払 (注 1)	3,947,200 千円	その他未払金	77,007 千円
親会社	三菱 UFJ 信託銀行㈱	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注 2)	4,893,312 千円	未払手数料	790,279 千円
						投資の助言	投資助言料 (注 3)	463,416 千円	未払費用	253,093 千円
						役員の兼任				

第 39 期 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

種類	会社等の 名称	所在地	資本金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注 5)	科目	期末残高 (注 5)
親会社	㈱三菱 UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	グループ通算制度	グループ通算 制度に伴う通 算税効果額 (注 4)	132,303 千円	その他未払金	105,407 千円
親会社	三菱 UFJ 信託銀行㈱	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注 2)	5,006,309 千円	未払手数料	886,173 千円
						投資の助言	投資助言料 (注 3)	463,831 千円	未払費用	260,800 千円
						役員の兼任				

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 連結納税制度及びグループ通算制度に基づく法人税の支払予定額であります。
2. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。
3. 投資助言料については、市場実勢を勘案して決定しております。
4. グループ通算制度に基づく通算税効果額であります。
5. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

(2)財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等
第 38 期（自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日）

種類	会社等の 名称	所在地	資本金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注 2)	科目	期末残高 (注 2)
同一の親会社を持つ会社	㈱三菱 UFJ 銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 (注 1)	4,052,979 千円	未払手数料	868,785 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 (注 1)	6,661,991 千円	未払手数料	1,218,051 千円

第 39 期（自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日）

種類	会社等の 名称	所在地	資本金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (注 2)	科目	期末残高 (注 2)
同一の親会社を持つ会社	㈱三菱 UFJ 銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 (注 1)	4,354,007 千円	未払手数料	1,028,586 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 (注 1)	7,493,449 千円	未払手数料	1,449,414 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。
2. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場）

三菱UFJ信託銀行株式会社（非上場）

（1株当たり情報）

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	415,979.76 円	454,898.22 円
1株当たり当期純利益金額	48,881.17 円	49,804.10 円

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第39期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益金額（千円）	10,342,327	10,537,601
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る当期純利益金額（千円）	10,342,327	10,537,601
普通株式の期中平均株式数（株）	211,581	211,581

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：百万円)

第 40 期中間会計期間
(2024 年 9 月 30 日現在)

(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金		28,443
有価証券		7
前払費用		812
未収入金		145
未収委託者報酬		23,384
未収収益		1,003
金銭の信託		1,999
その他		324
流動資産合計		56,120
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1	2,853
器具備品	※1	1,306
土地		628
建設仮勘定		193
有形固定資産合計		4,981
無形固定資産		
ソフトウェア		3,983
ソフトウェア仮勘定		1,356
無形固定資産合計		5,340
投資その他の資産		
投資有価証券		12,099
関係会社株式		159
投資不動産	※1	1,750
長期差入保証金		690
前払年金費用		14
繰延税金資産		1,692
その他		45
貸倒引当金		△23
投資その他の資産合計		16,428
固定資産合計		26,750
資産合計		82,871

(単位：百万円)

第 40 期中間会計期間
(2024 年 9 月 30 日現在)

(負債の部)

流動負債

預り金	943
未払金	
未払収益分配金	114
未払償還金	151
未払手数料	8,340
その他未払金	679
未払費用	8,675
未払消費税等	※2 845
未払法人税等	2,907
賞与引当金	1,176
役員賞与引当金	115
その他	9
流動負債合計	23,958

固定負債

退職給付引当金	1,644
役員退職慰労引当金	25
時効後支払損引当金	249
資産除去債務	1,436
その他	29
固定負債合計	3,384

負債合計

27,343

(純資産の部)

株主資本

資本金	2,000
資本剰余金	
資本準備金	3,572
その他資本剰余金	41,160
資本剰余金合計	44,732

利益剰余金

利益準備金	342
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	6,910
利益剰余金合計	7,253

株主資本合計

53,986

(単位：百万円)

第 40 期中間会計期間
(2024 年 9 月 30 日現在)

評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	1, 542
評価・換算差額等合計	1, 542
純資産合計	55, 528
負債純資産合計	82, 871

(2) 中間損益計算書

(単位：百万円)

第 40 期中間会計期間 (自 2024 年 4 月 1 日 至 2024 年 9 月 30 日)	
営業収益	
委託者報酬	56,145
投資顧問料	1,713
その他営業収益	2
営業収益合計	57,862
営業費用	
支払手数料	19,522
広告宣伝費	203
公告費	0
調査費	
調査費	2,206
委託調査費	15,946
事務委託費	1,042
営業雑経費	
通信費	80
印刷費	215
協会費	41
諸会費	11
事務機器関連費	1,405
営業費用合計	40,676
一般管理費	
給料	
役員報酬	232
給料・手当	3,459
賞与引当金繰入	1,089
役員賞与引当金繰入	115
福利厚生費	725
交際費	4
旅費交通費	60
租税公課	281
不動産賃借料	325
退職給付費用	189
固定資産減価償却費	※1 1,218
諸経費	524
一般管理費合計	8,224
営業利益	8,960

(単位：百万円)

第 40 期中間会計期間

(自 2024 年 4 月 1 日

至 2024 年 9 月 30 日)

営業外収益		
受取配当金		49
受取利息		4
投資有価証券償還益		22
収益分配金等時効完成分		3
受取賃貸料		112
その他		3
営業外収益合計		195
営業外費用		
投資有価証券償却損		6
時効後支払損引当金繰入		19
事務過誤費		7
賃貸関連費用	※1	94
その他		10
営業外費用合計		137
経常利益		9,017
特別利益		
投資有価証券売却益		497
特別利益合計		497
特別損失		
投資有価証券売却損		58
固定資産除却損		18
固定資産売却損		3
減損損失	※2	1,306
事業譲渡関連損失		285
特別損失合計		1,672
税引前中間純利益		7,842
法人税、住民税及び事業税		2,847
法人税等調整額		△428
法人税等合計		2,418
中間純利益		5,423

(3) 中間株主資本等変動計算書

第 40 期中間会計期間（自 2024 年 4 月 1 日 至 2024 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計
当期首残高	2,000	3,572	41,160	44,732
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
別途積立金の取崩				
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	—	—
当中間期末残高	2,000	3,572	41,160	44,732

	利益剰余金				株主資本合計
	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	342	6, 998	40, 236	47, 577	94, 310
当中間期変動額					
剰余金の配当			△45, 747	△45, 747	△45, 747
中間純利益			5, 423	5, 423	5, 423
別途積立金の取崩		△6, 998	6, 998	—	—
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	△6, 998	△33, 326	△40, 324	△40, 324
当中間期末残高	342	—	6, 910	7, 253	53, 986

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,937	1,937	96,247
当中間期変動額			
剰余金の配当			△45,747
中間純利益			5,423
別途積立金の取崩			—
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	△395	△395	△395
当中間期変動額合計	△395	△395	△40,719
当中間期末残高	1,542	1,542	55,528

〔重要な会計方針〕

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - (1) 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法を採用しております。
 - (2) その他有価証券
市場価格のない株式等以外のもの
中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。
市場価格のない株式等
移動平均法による原価法を採用しております。
2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法
時価法を採用しております。
3. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産及び投資不動産
定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	3年～20年
投資不動産	3年～50年
 - (2) 無形固定資産
定額法を採用しております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
4. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金
従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
 - (3) 役員賞与引当金
役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
 - (4) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。
 - ① 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理することとしております。
数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として10年)による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。
 - (5) 役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。
 - (6) 時効後支払損引当金
時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

5. 収益および費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) 委託者報酬

投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。委託者報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を投資信託によって主に年2回受領しております。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2) 投資顧問料

顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。投資顧問料は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を主に年4回受領しております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. その他中間財務諸表作成のための重要な事項

グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

[注記事項]

(中間貸借対照表関係)

※1 減価償却累計額

第 40 期中間会計期間 (2024 年 9 月 30 日現在)	
建物	590 百万円
器具備品	1,894 百万円
投資不動産	249 百万円

※2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。

(中間損益計算書関係)

※1 減価償却実施額

第 40 期中間会計期間 (自 2024 年 4 月 1 日 至 2024 年 9 月 30 日)	
有形固定資産	331 百万円
無形固定資産	886 百万円
投資不動産	38 百万円

※2 減損損失

当社は、以下のとおり減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
東京都港区 (本社)	インターネット直販サービス	ソフトウェア	1,306 百万円

当社は資産運用業の単一セグメントであるため、事業用資産に区別はなく、全社を 1 つのグルーピングとしております。

現行のソフトウェアについて将来の利用終了が見込まれるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、回収可能価額として使用価値を用いておりますが、割引率については使用見込期間が短いため考慮しておりません。

(中間株主資本等変動計算書関係)

第 40 期中間会計期間 (自 2024 年 4 月 1 日 至 2024 年 9 月 30 日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当中間会計期間 増加株式数 (株)	当中間会計期間 減少株式数 (株)	当中間会計期間末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	211,581	—	—	211,581
合計	211,581	—	—	211,581

2. 配当に関する事項

2024 年 6 月 26 日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

- | | |
|-------------|-----------------|
| ① 配当金の総額 | 45,747 百万円 |
| ② 配当の原資 | 利益剰余金 |
| ③ 1 株当たり配当額 | 216,218 円 |
| ④ 基準日 | 2024 年 3 月 31 日 |
| ⑤ 効力発生日 | 2024 年 6 月 27 日 |

(リース取引関係)

第 40 期中間会計期間(2024 年 9 月 30 日現在)

〈借主側〉

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1 年以内	681 百万円
1 年超	510 百万円
合 計	1,192 百万円

(金融商品関係)

第 40 期中間会計期間(2024 年 9 月 30 日現在)

1. 金融商品の時価等に関する事項

2024 年 9 月 30 日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（(注 2) 参照）。

	中間貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 有価証券	7	7	—
(2) 金銭の信託	1,999	1,999	—
(3) 投資有価証券	12,099	12,099	—
資産計	14,106	14,106	—

(注 1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注 2) 市場価格のない株式等

関連会社株式（中間貸借対照表計上額 159 百万円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

(注 3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の 3 つのレベルに分類しております。

レベル 1 の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル 2 の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル 1 のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル 3 の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって中間貸借対照表計上額とする金融資産

区分	時価（百万円）			
	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合計
有価証券	—	7	—	7
金銭の信託	—	1,999	—	1,999
投資有価証券	2,686	9,412	—	12,099
資産計	2,686	11,419	—	14,106

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF（上場投資信託）は相場価格を用いて評価しております。ETF は活発な市場で取引されているため、レベル 1 の時価に分類しております。

ETF（上場投資信託）以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル2の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

第40期中間会計期間（2024年9月30日現在）

1. 子会社及び関連会社株式

関連会社株式（中間貸借対照表計上額 159 百万円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

2. その他有価証券

	種類	中間貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額（百万円）
中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えるもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	10,113	7,534	2,578
	小計	10,113	7,534	2,578
中間貸借対照表 計上額が取得原価を 超えないもの	株式	—	—	—
	債券	—	—	—
	その他	3,993	4,349	△355
	小計	3,993	4,349	△355
合 計		14,106	11,883	2,222

（注）「その他」には、中間貸借対照表の「金銭の信託」（中間貸借対照表計上額 1,999 百万円、取得価額 2,000 百万円）を含めております。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減

第40期中間会計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）	
期首残高	1,428 百万円
有形固定資産の取得に伴う増加	—
時の経過による調整額	7 百万円
中間期末残高	1,436 百万円

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第40期中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第40期中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第 40 期中間会計期間 (2024 年 9 月 30 日現在)
1 株当たり純資産額	262,445.12 円
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額 (百万円)	55,528
普通株式に係る中間期末の純資産額 (百万円)	55,528
1 株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数 (株)	211,581

1 株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第 40 期中間会計期間 (自 2024 年 4 月 1 日 至 2024 年 9 月 30 日)
1 株当たり中間純利益金額	25,633.62 円
(算定上の基礎)	
中間純利益金額 (百万円)	5,423
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—
普通株式に係る中間純利益金額 (百万円)	5,423
普通株式の期中平均株式数 (株)	211,581

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4 【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- ① 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと (投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ② 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと (投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ③ 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等 (委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下④⑤において同じ。) または子法人等 (委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。) と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ④ 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ⑤ 上記③④に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5 【その他】

①定款の変更等

定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

②訴訟事件その他重要事項

該当事項はありません。

約款

追加型証券投資信託

eMAXIS Slim 国内債券インデックス

約 款

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

eMAXIS Slim 国内債券インデックス

運用の基本方針

約款第19条の規定に基づき、委託者の定める運用の基本方針は次のものとします。

1. 基本方針

この投資信託は、NOMURA-BPI総合インデックスと連動する投資成果をめざして運用を行います。

2. 運用方法

(1) 投資対象

日本債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、わが国の公社債に直接投資することがあります。

(2) 投資態度

- ①日本債券インデックスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の公社債に投資を行います。
- ②マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。
- ③対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し公社債の実質投資比率が100%を超える場合があります。
- ④市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(3) 投資制限

- ①株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ②新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ③投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ④同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ⑥同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ⑦外貨建資産への投資は行いません。
- ⑧有価証券先物取引等を行うことができます。
- ⑨スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。
- ⑩デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

3. 収益分配方針

毎計算期末に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ①分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ②収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
- ③収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

追加型証券投資信託
『eMAXIS Slim 国内債券インデックス』約款

(信託の種類、委託者および受託者)

第1条 この信託は、証券投資信託であり、三菱UFJアセットマネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者とします。

② この信託は、信託法（平成18年法律第108号）（以下「信託法」といいます。）の適用を受けます。

(信託事務の委託)

第2条 受託者は、信託法第28条第1号に基づく信託事務の委託として、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関（受託者の利害関係人（金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第2条第1項にて準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係をいいます。以下本条、第18条第1項および第2項ならびに第28条において同じ。）を含みます。）と信託契約を締結し、これを委託することができます。

② 前項における利害関係人に対する業務の委託については、受益者の保護に支障を生じることがない場合に行うものとします。

(信託の目的および金額)

第3条 委託者は、金100万円を受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

(信託金の限度額)

第4条 委託者は、受託者と合意のうえ、金5,000億円を限度として信託金を追加することができます。

② 委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができます。

(信託期間)

第5条 この信託の期間は、信託契約締結日から第44条第7項、第45条第1項、第46条第1項、第47条第1項および第49条第2項の規定による信託期間終了日までとします。

(受益権の取得申込みの勧誘の種類)

第6条 この信託に係る受益権の取得申込みの勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項で定める公募により行われます。

(当初の受益者)

第7条 この信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第8条の規定により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

(受益権の分割および再分割)

第8条 委託者は、第3条の規定による受益権については100万口に、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第9条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

② 委託者は、受託者と合意のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

(追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法)

第9条 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に当該追加信託に係る受益権の口数を乗じて得た額とします。

② この約款において基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および第27条に規定する借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除して得た金額（以下「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権総口数で除して得た金額をいいます。

(信託日時の異なる受益権の内容)

第10条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

(受益権の帰属と受益証券の不発行)

第11条 この信託のすべての受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受けることとし、受益権の帰属は、委託者があらかじめこの信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関（社振法第2条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。）および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。

② 委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

③ 委託者は、第8条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。

(受益権の設定に係る受託者の通知)

第12条 受託者は、第3条の規定による受益権については信託契約締結日に、また、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

(受益権の申込単位および価額)

第13条 委託者は、第8条第1項の規定により分割される受益権について、その取得申込者に対し、1口の整数倍をもって取得申込みに応じることができます。

② 委託者の指定する第一種金融商品取引業者（金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行う者をいいます。以下同じ。）および登録金融機関（金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。）は、第8条第1項の規定により分割される受益権について、その取得申込者に対し、委託者の指定する第一種金融商品取引業者および登録金融機関の定める単位をもって取得申込みに応じることができます。ただし、取得申込者が委託者の指定する第一種金融商品取引業者または登録金融機関と別に定める累積投資契約約款に基づく契約（以下「別に定める契約」といいます。）を締結している場合に限り、1口の整数倍をもって取得申込みに応じることができます。

③ 委託者は、金融商品取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。）等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、前2項による受益権の取得申込みの受け付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受け付けを取り消すことができます。

④ 委託者は、前項の規定にかかわらず、受益者が第42条第3項の規定に基づいて収益分配金を再投資する場合または受益者が別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の追加信託金の申込みについては、これを受け付けるものとします。

⑤ 第1項および第2項の場合の受益権の価額は、取得申込みを受け付けた日の基準価額とします。ただし、取得日が信託契約締結日である場合の受益権の価額は、1口につき1円とします。

- ⑥ 前項の規定にかかわらず、受益者が第42条第3項の規定に基づいて収益分配金を再投資する場合または受益者が別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、第36条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。
- ⑦ 第1項および第2項の取得申込者は、委託者、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または登録金融機関に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたこの信託の受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、委託者（第42条の2に規定する委託者の指定する口座管理機関を含みます。）、委託者の指定する第一種金融商品取引業者および登録金融機関は、当該取得申込みの代金（第5項の受益権の価額に当該取得申込みの口数を乗じて得た額をいいます。）の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。

（受益権の譲渡に係る記載または記録）

第14条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

- ② 前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- ③ 委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（受益権の譲渡の対抗要件）

第15条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

（投資の対象とする資産の種類等）

第16条 この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第23条および第24条に定めるものに限ります。）
 - ハ. 約束手形
 - ニ. 金銭債権
 2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形
- ② デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいう。）については、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額として、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないこととします。
- ③ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当

該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(投資の対象とする有価証券等)

第17条 この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者とする日本債券インデックスマザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券のほか、次に掲げるものとします。なお、当該有価証券は本邦通貨表示のものに限りします。

1. 株券または新株引受権証書
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
6. 資産の流動化に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
9. 資産の流動化に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
10. 資産の流動化に係る特定目的信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第13号で定めるものをいいます。）
11. コマーシャル・ペーパー
12. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
13. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
14. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
15. 投資証券もしくは新投資口予約権証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。次号において同じ。）で次号で定めるものの以外のもの
16. 投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下本号において同じ。）または外国投資証券で投資法人債券に類する証券
17. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
18. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りします。）
19. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
20. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
21. 受益証券発行信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定めるものをいいます。）
22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの
23. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）

なお、第1号の証券または証書ならびに第13号および第19号の証券または証書のうち第1号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号まで

の証券ならびに第16号の証券ならびに第13号および第19号の証券または証書のうち第2号から第6号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第14号および第15号の証券を以下「投資信託証券」といいます。

- ② 委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。
 1. 預金
 2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託を除きます。）
 3. コール・ローン
 4. 手形割引市場において売買される手形
 5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
 6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの
- ③ 委託者は、信託財産に属する株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- ④ 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。
- ⑤ 委託者は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- ⑥ 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。
- ⑦ 委託者は、信託財産に属する投資信託証券（上場投資信託証券（金融商品取引所に上場等され、かつ当該取引所において常時売却可能（市場急変等により一時的に流動性が低下している場合を除きます。）な投資信託証券をいいます。）を除きます。以下本項および次項において同じ。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- ⑧ 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める投資信託証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

（利害関係人等との取引等）

第18条 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、信託財産と、受託者（第三者との間において信託財産のためにする取引その他の行為であって、受託者が当該第三者の代理人となつて行うものを含みます。）および受託者の利害関係人、第28条第1項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の信託財産との間で、第16条第1項ならびに前条第1項および第2項に掲げる資産への投資等ならびに第22条から第24条、第26条、第27条、第31条から第33条に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことができます。

- ② 受託者は、受託者がこの信託の受託者としての権限に基づいて信託事務の処理として行うことができる取引その他の行為について、受託者または受託者の利害関係人の計算で行うことができるものとします。なお、受託者の利害関係人が当該利害関係人の計算で行う場合も同様とします。

- ③ 委託者は、金融商品取引法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、信託財産と、委託者、その取締役、執行役および委託者の利害関係人等（金融商品取引法第31条の4第3項および同条第4項に規定する親法人等または子法人等をいいます。）または委託者が運用の指図を行う他の信託財産との間で、第16条第1項ならびに前条第1項および第2項に掲げる資産への投資等ならびに第22条から第24条、第26条、第27条、第31条から第33条に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことの指図をすることができ、受託者は、委託者の指図により、当該投資等ならびに当該取引、当該行為を行うことができます。
- ④ 前3項の場合、委託者および受託者は、受益者に対して信託法第31条第3項および同法第32条第3項の通知は行いません。

（運用の基本方針）

第19条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行います。

（投資する株式等の範囲）

第20条 委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。

- ② 前項の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託者が投資することを指図することができます。

（同一銘柄の株式等への投資制限）

第21条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

- ② 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。
- ③ 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- ④ 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

（信用取引の指図範囲）

第22条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。

- ② 前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
1. 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券
 2. 株式分割により取得する株券
 3. 有償増資により取得する株券
 4. 売出しにより取得する株券
 5. 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権（第25条に規定する転換社債

型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。)の行使により取得可能な株券

6. 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権（前号に定めるものを除きます。）の行使により取得可能な株券

（先物取引等の運用指図）

第23条 委託者は、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の金融商品取引所におけるわが国の有価証券に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めて取り扱うものとします（以下同じ。）。

- ② 委託者は、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるわが国の金利に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

（スワップ取引の運用指図）

第24条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。

- ② スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として第5条に規定する信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ③ スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- ④ 委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

（同一銘柄の転換社債等への投資制限）

第25条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債（この信託約款において、新株予約権付社債のうち、会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているものならびに会社法施行前の旧商法第341条の3第1項第7号および第8号の定めがあるものをいいます。）の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該転換社債および当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

- ② 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該転換社債および当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

（有価証券の貸付の指図および範囲）

第26条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸し付けることの指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- ② 前項各号に規定する限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- ③ 委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行う

ものとしします。

(公社債の借入れ)

第27条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めたときは、担保の提供の指図を行うものとしします。

- ② 前項の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ③ 信託財産の一部解約等の事由により、前項の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとしします。
- ④ 第1項の借入れに係る品借料は、信託財産中から支弁します。

(信託業務の委託等)

第28条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの(受託者の利害関係人を含みます。)を委託先として選定します。

- 1. 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
- 2. 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
- 3. 委託される信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行う体制が整備されていること
- 4. 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること
- ② 受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとしします。
- ③ 前2項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務を、受託者および委託者が適当と認める者(受託者の利害関係人を含みます。)に委託することができるものとしします。
 - 1. 信託財産の保存に係る業務
 - 2. 信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
 - 3. 委託者のみの指図により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務
 - 4. 受託者が行う業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

(混蔵寄託)

第29条 金融機関または第一種金融商品取引業者等(第一種金融商品取引業者および外国の法令に準拠して設立された法人でこれに類する者をいいます。以下本条において同じ。)から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または第一種金融商品取引業者等が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または第一種金融商品取引業者等の名義で混蔵寄託できます。

(信託財産の登記等および記載等の留保等)

第30条 信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとしします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

- ② 前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとしします。
- ③ 信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとしします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。
- ④ 動産(金銭を除きます。)については、外形上区別することができる方法によるほか、

その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

(有価証券売却等の指図)

第31条 委託者は、信託財産に属するマザーファンドの受益証券に係る信託契約の一部解約、有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第32条 委託者は、前条の規定による一部解約金、売却代金、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

第33条 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

② 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。

③ 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

④ 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

(損益の帰属)

第34条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

(受託者による資金立替え)

第35条 信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株主割当がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

② 信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立て替えて信託財産に繰り入れることができます。

③ 前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

(信託の計算期間)

第36条 この信託の計算期間は、毎年4月26日から翌年4月25日までとすることを原則とします。

② 前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、第1計算期間は信託契約締結日から2018年4月25日までとし、最終計算期間の終了日は第5条に規定するこの信託の信託期間の終了日とします。

(信託財産に関する報告等)

第37条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

② 受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

③ 受託者は、前2項の報告を行うことにより、受益者に対する信託法第37条第3項に定める報告は行わないこととします。

④ 受益者は、受託者に対し、信託法第37条第2項に定める書類または電磁的記録の作成に欠くことのできない情報その他の信託に関する重要な情報および当該受益者以外の者の利益を害するおそれのない情報を除き、信託法第38条第1項に定める閲覧または謄写の請求をすることはできないものとします。

⑤ 受益者は、委託者または受託者に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行うことはできないものとします。

1. 他の受益者の氏名または名称および住所
2. 他の受益者が有する受益権の内容

(信託事務の諸費用および監査報酬)

第38条 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立て替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

② 信託財産に係る監査報酬および当該監査報酬に係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額は、毎計算期間の6ヵ月終了日、および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

(信託報酬等)

第39条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第36条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に応じて以下の率を乗じて得た額とします。

500億円未満の部分 年10,000分の12

500億円以上1,000億円未満の部分 年10,000分の11.5

1,000億円以上の部分 年10,000分の11

② 前項の信託報酬は、毎計算期間の6ヵ月終了日、および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとし、委託者と受託者との間の配分は別に定めます。

③ 第1項の信託報酬に係る消費税等に相当する金額を信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

(収益の分配)

第40条 信託財産から生じる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（「配当等収益」といいます。）は、諸経費、監査報酬、当該監査報酬に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。

2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、監査報酬、当該監査報酬に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

② 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

(収益分配金、償還金および一部解約金の払込みと支払いに関する受託者の免責)

第41条 受託者は、収益分配金については原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除して得た額をいいます。以下同じ。）については第42条第4項に規定する支払開始日までに、一部解約金（第44条第3項の一部解約の価額に当該一部解約口数を乗じて得た額をいいます。以下同じ。）については第42条第5項に規定する支払開始日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。

② 受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責を負わないものとします。

(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)

第42条 収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者（第42条の2に規定する委託者の指定する口座管理機関を含みます。）、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払います。

- ② 前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が委託者の指定する第一種金融商品取引業者および登録金融機関に交付されます。この場合、委託者の指定する第一種金融商品取引業者および登録金融機関は、当該収益分配金をこの信託の受益権の取得申込金として、受益者毎に当該収益分配金の再投資に係る受益権の取得申込みに応じたものとしします。当該取得申込みに応じることにより増加した受益権は第11条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。
- ③ 委託者は、第1項の規定にかかわらず、委託者の自らの募集に係る受益権に帰属する収益分配金（受益者が自己に帰属する受益権の全部もしくは一部の口数について、委託者に対し、この信託の収益分配金の再投資に係る受益権の取得申込みをしないことをあらかじめ申し出た場合において、委託者が当該申出を受け付けた受益権に帰属する収益分配金を除きます。）をこの信託の受益権の取得申込金として、受益者毎に当該収益分配金の再投資に係る受益権の取得申込みに応じたものとしします。当該取得申込みに応じることにより増加した受益権は第11条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。
- ④ 償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者（第42条の2に規定する委託者の指定する口座管理機関を含みます。）、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- ⑤ 一部解約金は、第44条第1項の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として、4営業日目から当該受益者に支払います。
- ⑥ 前各項（第2項および第3項を除きます。）に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者ならびに委託者の指定する第一種金融商品取引業者および登録金融機関の営業所等において行うものとしします。
- ⑦ 収益分配金、償還金および一部解約金に係る収益調整金は、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとしします。

(委託者の自らの募集に係る受益権の口座管理機関)

第42条の2 委託者は、委託者の自らの募集に係る受益権について、口座管理機関を指定し、振替口座簿への記載または登録等に関する業務を委任することができます。

(収益分配金および償還金の時効)

第43条 受益者が、収益分配金については第42条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金については第42条第4項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(信託契約の一部解約)

第44条 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託者ならびに委託者の指定する第一種金融商品取引業者および登録金融機関が定める単位をもって、委託者に一部解約の実行を請求することができます。なお、委託者の自らの募集に係る受益権については、1口の整数倍をもって一部解約の実行を請求することができます。

- ② 委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、前項の一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行うのと引換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- ③ 前項の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求を受け付けた日の基準価額とします。
- ④ 受益者が第1項の一部解約の実行の請求をするときは、委託者、委託者の指定する第一種金融商品取引業者または登録金融機関に対し、振替受益権をもって行うものとします。
- ⑤ 委託者は、金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、第1項による一部解約の実行の請求の受付けを中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受付けを取り消すことができます。
- ⑥ 前項により一部解約の実行の請求の受付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして第3項の規定に準じて計算された価額とします。
- ⑦ 委託者は、信託契約の一部を解約することにより、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合には、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- ⑧ 委託者は、前項の規定に基づいてこの信託契約を解約しようとするときは、第45条第2項から第5項の規定にしたがいます。

(信託契約の解約)

第45条 委託者は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、対象インデックスが改廃されたときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができるものとし、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

- ② 委託者は、前項の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- ③ 前項の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- ④ 第2項の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- ⑤ 第2項から前項までの規定は、委託者が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第2項から前項までの手続を行うことが困難な

場合も同じく適用しません。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

第46条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

② 委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第50条の規定にしたがいます。

(委託者の登録取消等に伴う取扱い)

第47条 委託者が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

② 前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第50条第2項に規定する書面決議が否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

第48条 委託者は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

② 委託者は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任および解任に伴う取扱い)

第49条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第50条の規定にしたがい、新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託者を解任することはできないものとします。

② 委託者が新受託者を選任できないときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

(信託約款の変更等)

第50条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

② 委託者は、前項の変更または併合（変更にあつては、その変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、併合にあつては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下、「重大な約款の変更等」といいます。）をしようとする場合には、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

③ 前項の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

④ 第2項の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

⑤ 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

⑥ 第2項から前項までの規定は、委託者が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

⑦ 前各項の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっては、当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

(反対者の買取請求権)

第51条 第45条に規定する信託契約の解約または前条に規定する重大な約款の変更等を行う場合には、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。

② 前項の規定は、受益者が自己に帰属する受益権についてその全部または一部の償還を請求したときに、委託者が第44条の規定に基づいて信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じることとする場合には適用しません。

(運用報告書に記載すべき事項の提供)

第52条 委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、当該運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供します。

② 前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から運用報告書の交付の請求があった場合には、これを交付します。

(公告)

第53条 委託者が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.am.mufg.jp/>

② 前項の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

(質権口記載または記録の受益権の取扱い)

第54条 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この約款によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

(信託約款に関する疑義の取扱い)

第55条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

(附則)

第1条 この約款において「累積投資契約」とは、この信託について受益権取得申込者と委託者の指定する第一種金融商品取引業者または登録金融機関が締結する「累積投資契約」と別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含むものとします。この場合「累積投資契約」は当該別の名称に読み替えるものとします。

第2条 第42条第7項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、同条同項に規定する「受益者毎の信託時の受益権の価額等」とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

